

第2回 木津川市総合計画審議会

日時：平成29年11月28日（火）

午後2時～

場所：木津川市役所 5階 全員協議会室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

（1）報告事項

前回の審議会結果

（2）確認事項

①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果

②第1次木津川市総合計画施策WT評価結果

（3）審議事項

第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像

（4）その他

3. 閉 会

第1回木津川市総合計画審議会 について

1. 議事の流れ
2. 主な意見

平成29年11月28日
第2回 木津川市総合計画審議会



木津川市

1.第1回審議会(H29.7.29)議事

①市長あいさつ

これまでのまちづくりの成果として、人口は着実に増加しているが、今後健全財政に向けた取り組みが必要。第1次総合計画は、新たなまちの礎を築くことに主眼を置いたが、今後は、持続可能なまちづくりとして体力づくりが必要不可欠。

②委員紹介

③会長・副会長選出

会 長：真山 達志委員（同志社大学政策学部教授）
副会長：今里 佳奈子委員（龍谷大学政策学部教授）

④諮問

⑤確認事項

本審議会運営、第2次総合計画策定方針

⑥報告事項

第1次木津川市総合計画後期基本計画、木津川市の概況

⑦審議事項

市民・中学生アンケート調査

2.主な意見

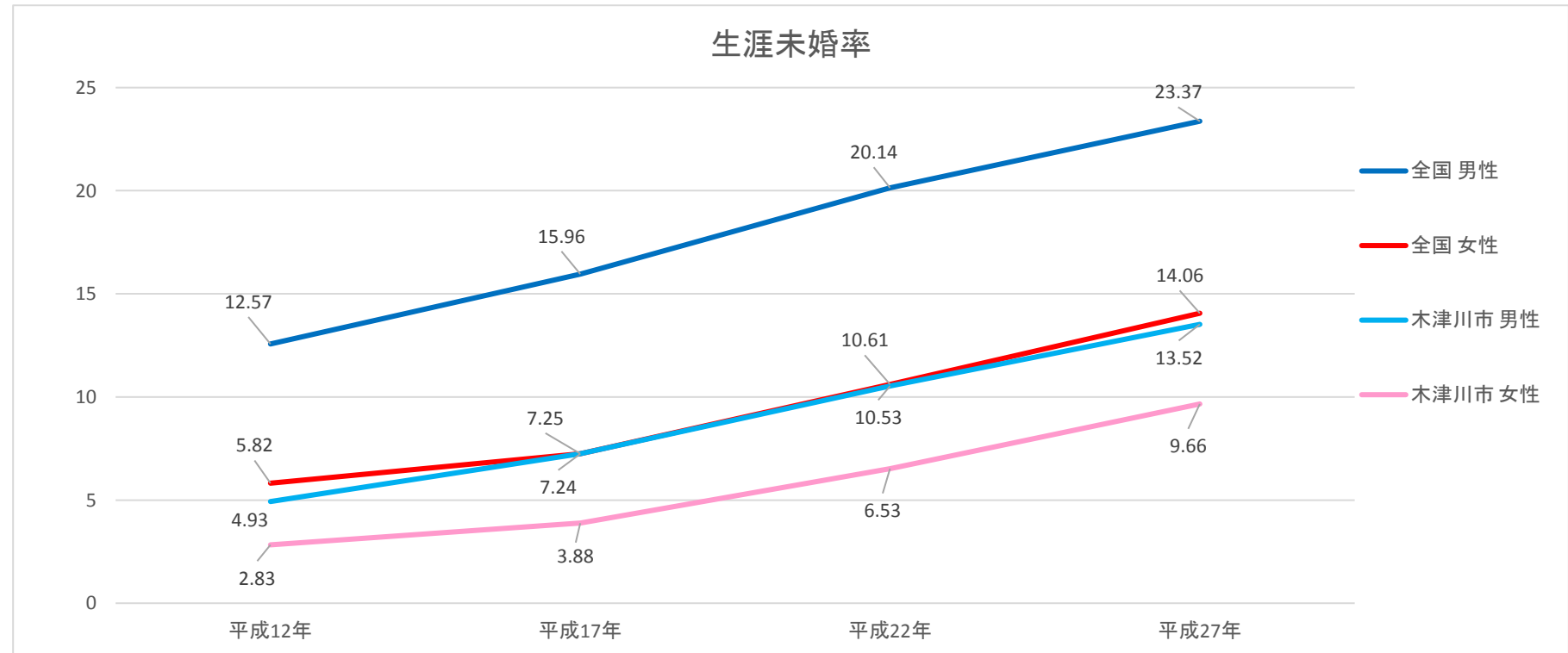
- ①人口減少対策として、婚活事業に取り組む自治体もある。木津川市における生涯未婚率を確認すること。
- ②市全体として人口は増加しているが、地域によっては子どもが少ないという状況がある。地域と
いった視点も必要。
- ③公共施設など社会インフラの老朽化に伴い、これらの対応や方向性も検討すること。
- ④ハード面での計画である都市計画マスタープランとの整合も必要。
- ⑤待機児童はゼロとあったが、希望しても入れない、または、入れても希望したところではないと
いったケースもあると考える。それらの数値も把握すること。
- ⑥観光資源が増えることはないが、自然の保全や対応策も計画に反映させたい。
木津川を方向性にすることもあり得るのでは。

国勢調査における生涯未婚率

		平成27年								
		45～49歳				50～54歳				50歳時点未婚率 (単純平均)
		総数	不詳	未婚	未婚率	総数	不詳	未婚	未婚率	未婚率
全国	男性	4,354,877	135,697	1,092,022	25.88%	3,968,311	103,527	806,163	20.86%	23.37%
	女性	4,307,927	71,121	683,887	16.14%	3,961,985	55,381	467,837	11.98%	14.06%
京都府	男性	84,496	2,172	20,962	25.46%	75,265	1,776	14,665	19.96%	22.71%
	女性	87,800	1,213	15,759	18.20%	79,577	1,083	10,536	13.42%	15.81%
木津川市	男性	2,344	11	364	15.60%	1,887	8	215	11.44%	13.52%
	女性	2,493	9	295	11.88%	2,194	3	163	7.44%	9.66%

		平成22年								
		45～49歳				50～54歳				50歳時点未婚率 (単純平均)
		総数	不詳	未婚	未婚率	総数	不詳	未婚	未婚率	未婚率
全国	男性	4,027,969	77,500	887,283	22.46%	3,809,576	63,080	667,268	17.81%	20.14%
	女性	4,005,147	61,270	495,123	12.55%	3,834,923	47,860	328,540	8.68%	10.61%
京都府	男性	76,198	1,207	16,057	21.41%	69,544	1,001	11,267	16.44%	18.92%
	女性	79,967	1,312	10,958	13.93%	72,822	1,014	6,880	9.58%	11.76%
木津川市	男性	1,890	2	239	12.66%	1,932	2	162	8.39%	10.53%
	女性	2,165	1	177	8.18%	2,053	2	100	4.88%	6.53%

50歳の時点で一度も結婚したことがない人の割合。45～49歳および50～54歳の未婚率の平均値から算出。



※出典：国勢調査

【分析結果】

- 全国、京都府及び木津川市の生涯未婚率は増加傾向にある。
- 木津川市の生涯未婚率については、全国及び京都府よりも低い。
- 全国的に都市部より地方の方が生涯未婚率は低いが、本市においては、子育て世代の転入により生涯未婚率が低くなっている。

児童・園児内訳(平成29年度)

資料 1 - 2

・保育所

区分	園児数	入所率	定員充足率
保育所定員	2,376人	-	-
実待機児童(国基準)4月1日現在	0人	-	-
保育所	2,156人	45.5%	90.7%
幼稚園	530人	11.2%	-
その他 未就園児 保育所(市外)・幼稚園(市外)	2,049人	43.3%	-
合計(こども人口)	4,735人	-	-
人口	75,555人	-	-

・幼稚園

平成29年11月1日現在

区分	園児数	定員	クラス数
3歳児	80人	80人	4
4歳児	230人	280人	8
5歳児	222人	245人	7
合計	532人	605人	19

【分析結果】

○実待機児童数0人については、保育所への利用申請の際に、利用希望施設を第5希望まで記載していただいております、すべての希望者が入所できている。

しかし、第1希望しか入所を希望しないなど、私的理由により待機をしている希望者は22人である。(平成29年4月1日現在)

○4月1日以降、本市への転入者等により、実待機児童数は54人である。

木津川市総合計画策定に係るワークショップ (座談会)の参加地域を募集します。

マチオモイ部 学研企画課

市では、将来像やまちづくりの基本方針などを定めた総合計画を策定しています。

第1次木津川市総合計画が平成31年3月末に計画期間が終了することから、今年度及び次年度の2か年度において、第2次木津川市総合計画の策定に取り組んでいるところです。

本市では、全体として人口が増加していますが、人口減少や高齢化が進む地域もあり、地域毎に課題があると考えています。これらの地域の課題を把握し、限られた財源のもとで、今後のまちづくりを地域の皆様と一緒に考えるためにワークショップを開催することとし、ご協力いただける地域を募集します。

つきましては、ご協力いただける場合は、12月25日(月)までに学研企画課へご連絡ください。

応募多数の場合は選考することとしています。

【ワークショップ概要】

①おおむね市内の2か所の地域(1地域20人程度)にて、平成30年3月までに1地域あたり2回程度開催します。

②内容は次のとおりです。

- ・地域の課題(人口減少や高齢化、空き家)やニーズ
- ・地域コミュニティの活性化

ワークショップ・・・参加者が共同で研究や創作を行う場・機会。

地域の課題等について、意見を出し合い、市のまちづくりの課題や方向性などを検討します。

担 当：学研企画課 企画政策係 藤木
TEL：0774-75-1201

I. 計画策定の背景と目的

計画の目的

公共施設等の機能を維持しつつ、可能な限り次世代に負担を残さない効率的・効果的な公共施設等の最適な配置を実現するために「公共施設等総合管理計画」を策定するものです。

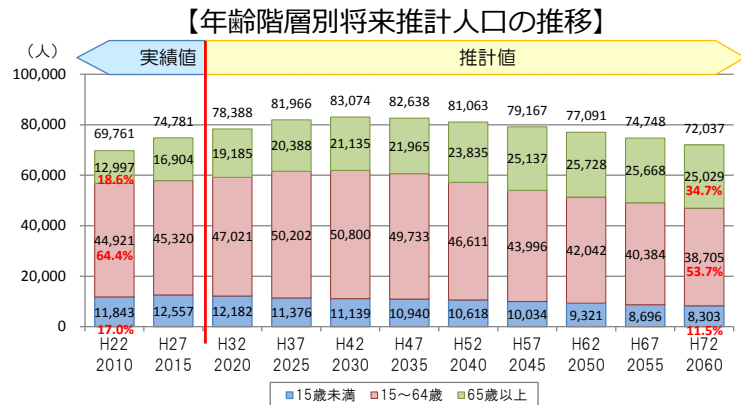
計画の位置づけ

本計画は、「第 1 次木津川市総合計画」に基づく計画として位置付け、「第 1 次木津川市都市計画マスタープラン」やその他の計画と整合を図ることとします。

II. 公共施設等を取り巻く現状と課題

1.人口の推移

木津川市の将来推計人口は、2030 年（平成 42 年）まで増加傾向が続き、それ以降、人口は減少傾向となり 2060 年（平成 72 年）には 72,000 人まで減少すると考えられます。また、年齢階層別人口の推移は、2010 年には 18.6%だった高齢人口（65 歳以上）が 2060 年には 34.7%、17.0%だった年少人口（15 歳未満）は 11.5%と人口減少とあわせ少子高齢化が進展していきます。



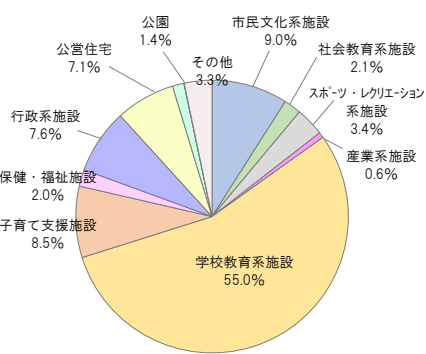
2.公共施設等の現状

公共建築物

237 施設 総延床面積 237,605 ㎡

【公共建築物の施設保有状況】

施設分類	施設数	延床面積(㎡)	割合(%)
市民文化系施設	46	21,434.03	9.0%
社会教育系施設	7	4,891.78	2.1%
スポーツ・レクリエーション系施設	7	8,071.67	3.4%
産業系施設	5	1,534.36	0.6%
学校教育系施設	21	130,724.53	55.0%
子育て支援施設	34	20,085.46	8.5%
保健・福祉施設	8	4,716.58	2.0%
行政系施設	30	18,222.74	7.6%
公営住宅	17	16,794.75	7.1%
公園	35	3,229.18	1.4%
供給処理施設	2	103.10	0.0%
その他	25	7,796.68	3.3%
合計	237	237,604.86	100.0%



インフラ資産

道路・橋りょう・水道管・下水道管

【インフラ資産の保有状況】

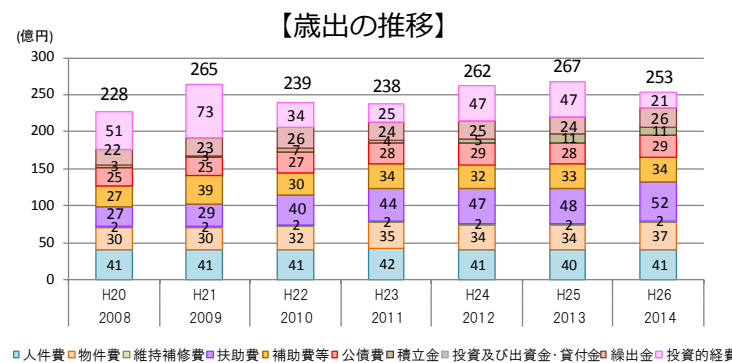
道 路	実延長537,545m (自転車歩行者道を含む)
橋 り ょ う	総本数 351本
上水道管	総延長528,665m
下水道管	総延長451,089m



3.財政の状況

歳出については、この 3 年間は、約 262 億円、約 267 億円、約 253 億円となっています。

増加傾向にある費目は物件費、扶助費となっており、平成 26 年度では、扶助費が約 20.5%と最も高い割合を占めています。



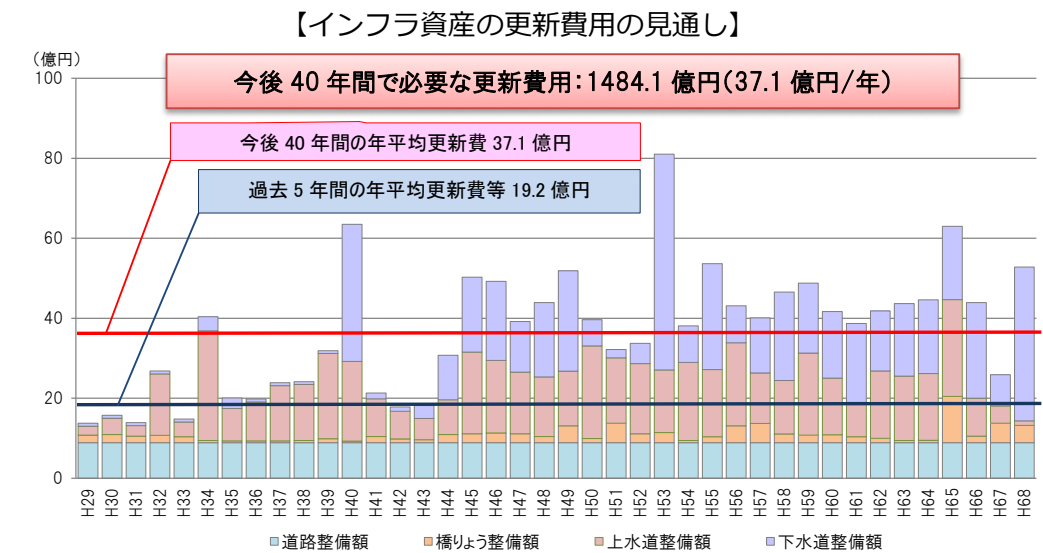
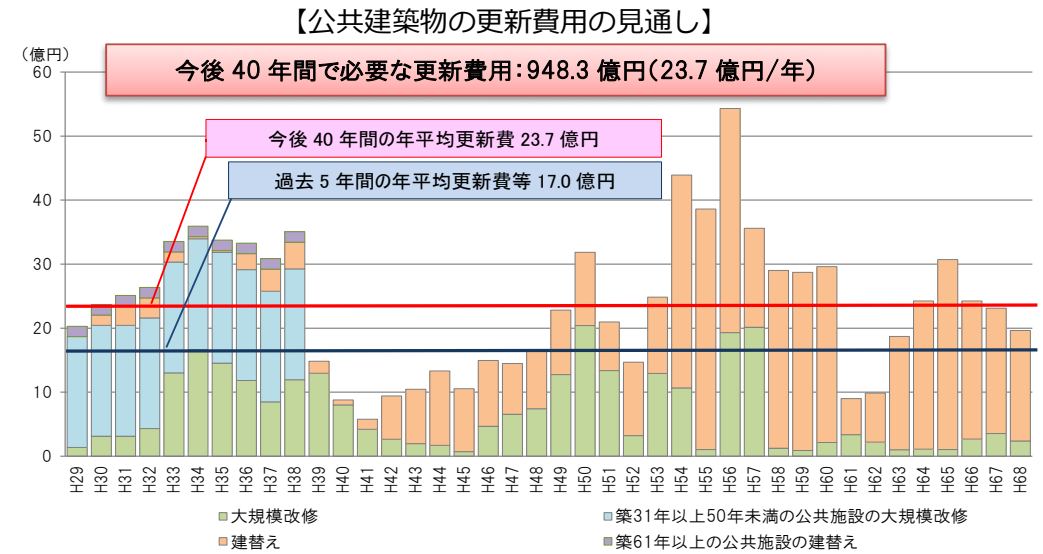
4.将来の公共施設更新費用の見通しと課題

公共建築物の更新費用等は、今後 40 年間に総額約 948.3 億円（1 年あたり平均 23.7 億円）が必要となります。（過去 5 年間の約 1.4 倍）

インフラ資産の更新費用等は、今後 40 年間に総額約 1,484.1 億円（1 年あたり平均約 37.1 億円）が必要となります。（過去 5 年間の約 1.9 倍）

公共建築物とインフラ資産の合計の更新費用等は、今後 40 年間に総額約 2432.4 億円（1 年あたり平均約 60.8 億円）が必要となります。（過去 5 年間の約 1.7 倍）

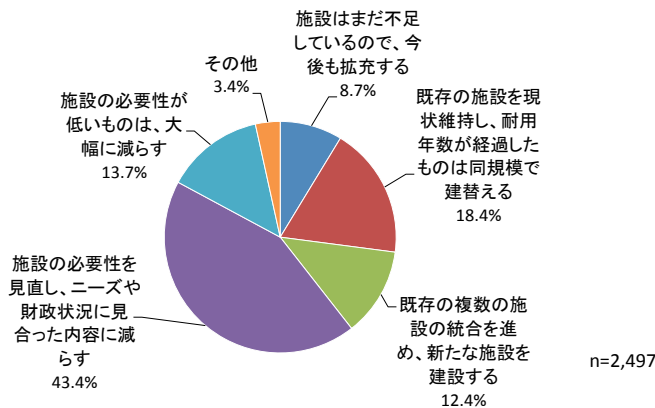
※総務省「公共施設更新費用試算ソフト」活用



5.市民意識（アンケート調査結果）

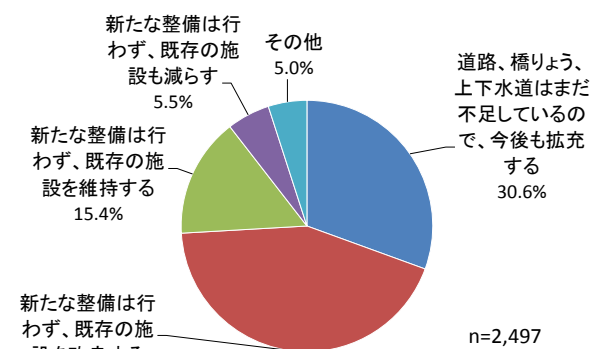
①公共建築物の今後の整備について

公共建築物の今後の整備については、統合または縮減との回答が約 7 割、拡充は約 1 割未満となっています。



②インフラ資産の今後の整備について

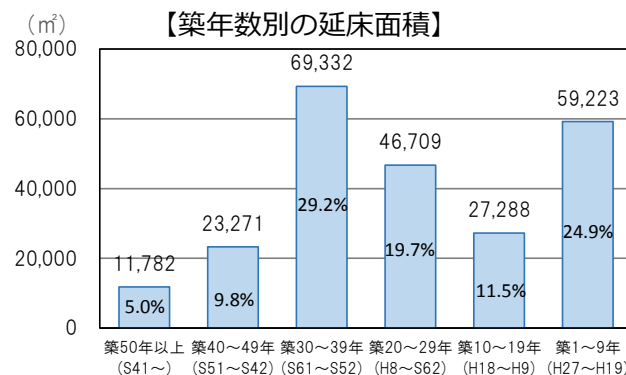
インフラ資産の今後の整備については、現状維持または改良との回答が約 6 割、拡充が約 3 割となっています。



6.公共施設等を取り巻く現状と課題（まとめ）

①公共施設等の老朽化とそれに伴う更新費用の増大

木津川市の公共建築物は、昭和 57 年から平成 9 年にかけて集中的に整備がなされており、現在、築 30 年以上経過した公共施設が 44%を、10 年後には 64%を占めることになります。



②人口構造や社会情勢の変化に伴うニーズへの対応

全国的に多くの自治体が人口減少・少子高齢化のサイクルに移行している中、木津川市は人口が増加傾向にあり、当面はこの傾向は続くとされています。しかし、将来的には、人口減少のサイクルに移行し、少子高齢化・生産年齢人口の減少が進むと推計されています。

③公共施設等の更新にかかる財政的な制約

木津川市の財政状況を見ると、自主財源である市税による収入は近年、横ばいの傾向にあります。一方で歳出では、福祉や社会保障に用いる扶助費が増加傾向にあり、歳出全体の 20%を占める状況となっています。さらに将来の人口減少・少子高齢化の進展により、生産年齢人口の減少は市税収入の減少に、高齢者の増加は扶助費の増加につながっていきます。

④これからの公共施設等のあり方の検討

木津川市を取り巻く現状と課題から、市が保有する公共建築物・インフラ資産のすべてを将来的にも市民の皆様が安全に利用できる状態で維持し続けていくことは難しいといわざるを得ません。そのため、長期的な視点に立ち、公共施設の役割、求められる機能、市民の皆様のニーズの変化等を踏まえ、施設の統廃合や複合化、長寿命化などを計画的に実施し、財政的な負担を軽減・平準化するとともに、必要なサービスを提供し続けられる持続可能性の高い公共施設等のあり方を検討していく必要があります。

Ⅲ. 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針

1.計画期間

平成 29(2017)年度
～平成 58(2046)年度

公共施設等の計画的な管理運営においては、中長期的な視点が不可欠となることから、計画期間は 30 年間とします。ただし、取り組みの進捗状況、情報や知見の蓄積状況を踏まえ、計画期間内であっても必要に応じて適宜見直し、取り組みを継続、発展させることとします。

2.公共施設等の管理に関する基本的な考え方

3つの基本方針

基本方針 1：施設総量の適正化

将来的に予測される少子高齢化の進行による公共施設の利用需要の変化や厳しい財政状況を鑑みて、施設の統廃合を行います。また、施設の更新時は、複合化・多機能化を進めることにより、施設総量を縮減し、施設総量の適正化を図ります。

基本方針 2：長寿命化の推進

「予防保全」の考え方による施設の点検と計画的な維持管理・修繕によるライフサイクルコストの縮減を図るため、施設の長寿命化を推進します。

基本方針 3：サービスの質の維持・向上

指定管理者制度の活用による民間活力の導入や、地域との協働のもと、公共施設等の効率的・効果的な維持管理・運営に努め、人口構造や社会情勢の変化に伴う新たな住民ニーズに対応したサービスの質の維持・向上を図ります。

数値目標の設定

公共建築物

公共建築物は更新に必要な財源に応じて施設保有量（公共建築物の延床面積）の削減を目指します。

インフラ資産

インフラ資産は市民の生活や生活基盤を支えていくうえで必要不可欠なものであり、公共建築物と同様に複合化や統廃合による数量の削減は適切とは言えません。このため、長寿命化や適切な維持管理・補修により、安全確保に努めつつライフサイクルコストの圧縮を目指すものとして、保有量の削減目標は設定しません。

公共建築物の保有量(延床面積)を 30 年間で 28%削減を目指す
※30 年後には現在の更新費用水準(過去 5 年間)を上回らない

7つの実施方針

①点検・診断等の実施方針

施設の状態や対策履歴等を記録し、次の点検・診断等に活用する「メンテナンスサイクル」を構築します。

②維持管理・修繕・更新等の実施方針

機能の保持・回復を図る予防保全型維持管理の導入を推進し、ライフサイクルコストの平準化に努めます。

③安全確保の実施方針

施設を安全な状態で維持し、サービスを継続的に提供します。

④耐震化の実施方針

耐震補強が未実施の施設のうち、利用状況や危険度等を踏まえたうえで、必要に応じて施設の耐震化を推進します。

⑤長寿命化の実施方針

機能面から長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減を進め、財政負担の抑制と平準化に努めます。

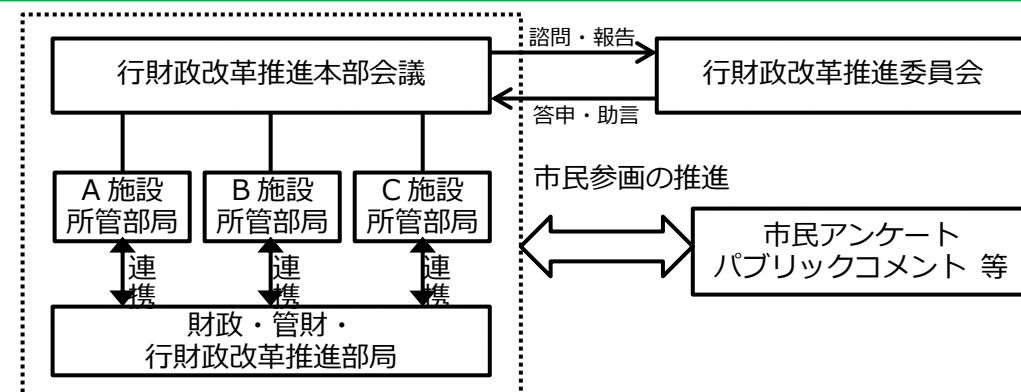
⑥統合や廃止の推進方針

時代のニーズや利用状況等を照らして、必要性が低くなっている公共施設等は、利用者等に十分な説明を行い、調整を図ったうえで、廃止・撤去を進めます。

⑦総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築方針

公共施設等の計画的な管理を推進するため、総量を管理し、効果的に進行管理を進めます。

取組体制・推進体制



木津川市マスコットキャラクター いづみ姫
木津川市総務部 財政課・行財政改革推進室
TEL0774-72-0501(代)/0774-75-1202(直)
市ホームページ <http://www.city.kizugawa.lg.jp>

第1次木津川市都市計画 マスタープラン後期計画

概要版



自然、文化 調和と発展のまち・木津川市

木津川市

I 計画の前提

「都市計画マスタープラン」は、市民に一番身近な自治体である市が目指すべき将来像を市民の皆さんと一緒に考えながら、都市の将来像や整備方針を明確にし、行政と市民がこれを共有しながら実現していくことを目的として策定します。

目標年次は、5年後の平成32年（2020年）とします。

II 全体構想

1. 都市計画の目標

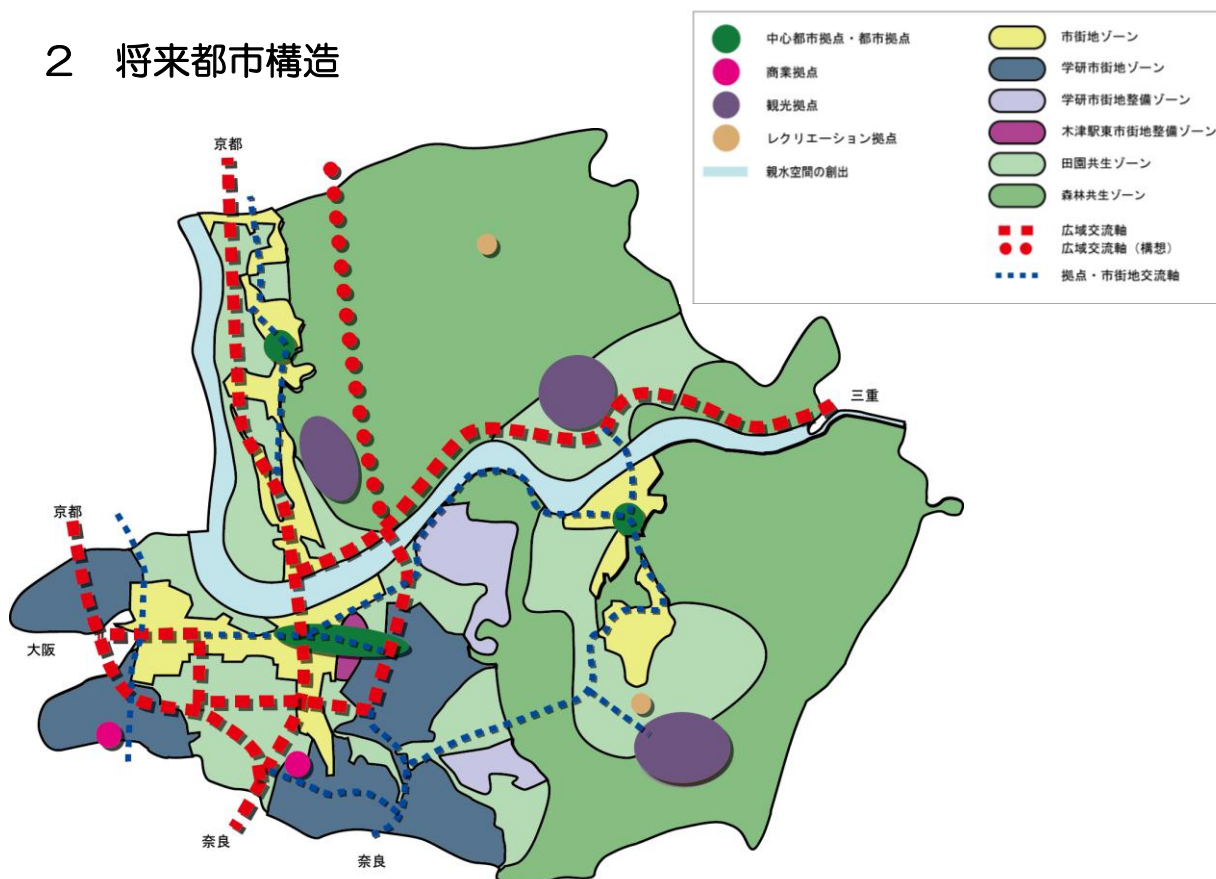
1 都市計画の目標

自分たちの地域に誇りと愛着を持ち、誰もが住みたいと思うまち、そして末永く暮らし続けたいと思うまちを目指します

都市計画の目標

人、自然、文化 調和と発展のまち・木津川市

2 将来都市構造



3 人口フレーム

国立社会保障・人口問題研究所によると、平成 32 年の木津川市の人口は 76,320 人と推計されていますが、関西文化学術研究都市の開発に伴い人口増加が見込まれるものの、今後、集落等での人口減少が進むと予想されることから、平成 32 年における人口フレームを 7 万 5 千人とします。さらに、その後において 10 万人都市の構築を目指します。

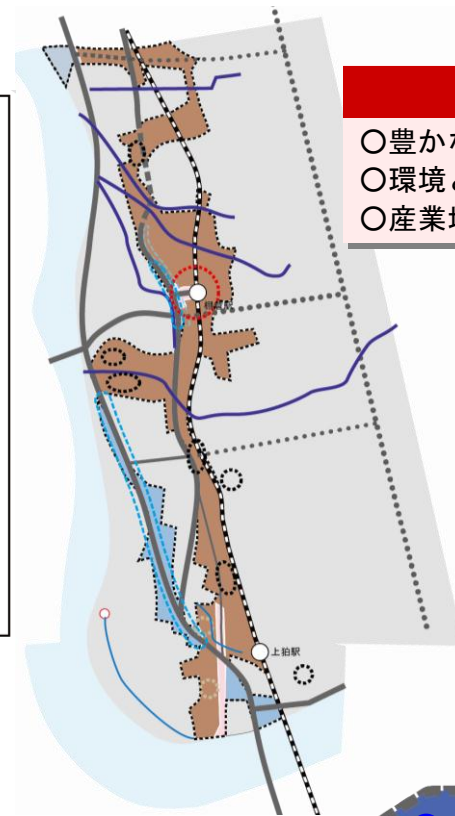
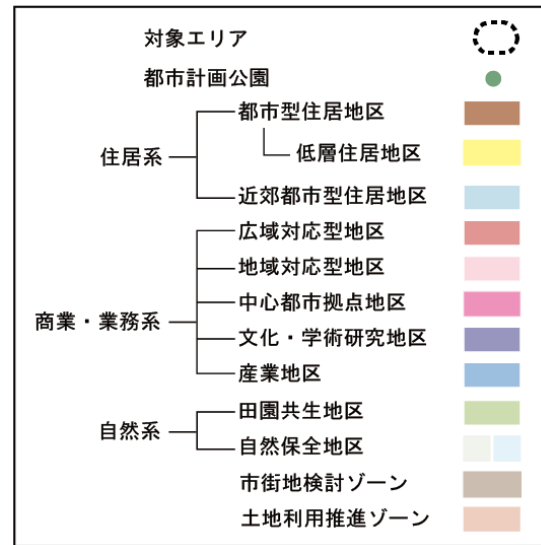
平成32年（2020年）における人口フレーム	7万5千人
将来目標人口	10万人

2. 重点プロジェクト

重点プロジェクトは、本計画の期間である今後 5 年間で取り組む施策・事業等において、特に戦略的、横断的に取り組むことによって木津川市のまちの魅力が向上し、市の価値を大きく高めることにつながると考えられるものについて、その方向と実現するための施策の枠組みを明らかにするものです。

重点プロジェクト	概 要
木津川市一体性強化プロジェクト	市内外の移動の円滑化を図り、まちの一体性の強化と市全域の均衡ある発展の基礎を築くため、道路等の都市基盤整備による円滑な道路環境の実現を図るとともに、利便性の高い公共交通網の形成を図ります。
まちの活力創出プロジェクト	関西文化学術研究都市の研究施設の立地や豊富な歴史的文化遺産等の地域資源を、まちの価値をさらに高めるとともに市の活力を生み出すものとして個々の魅力を最大限に引き出す取り組みを進め、まちの活性化を図ります。
住みよさ向上プロジェクト	都市づくりにおける安心・安全に関わる道路・都市防災の強化、ごみ処理・水洗化など市民生活に欠かすことができない基礎的な都市的サービスの提供をはじめ、都市景観形成のためのしくみづくり、循環型社会形成を推進するための施設整備などに取り組みます。

III 地域別構想

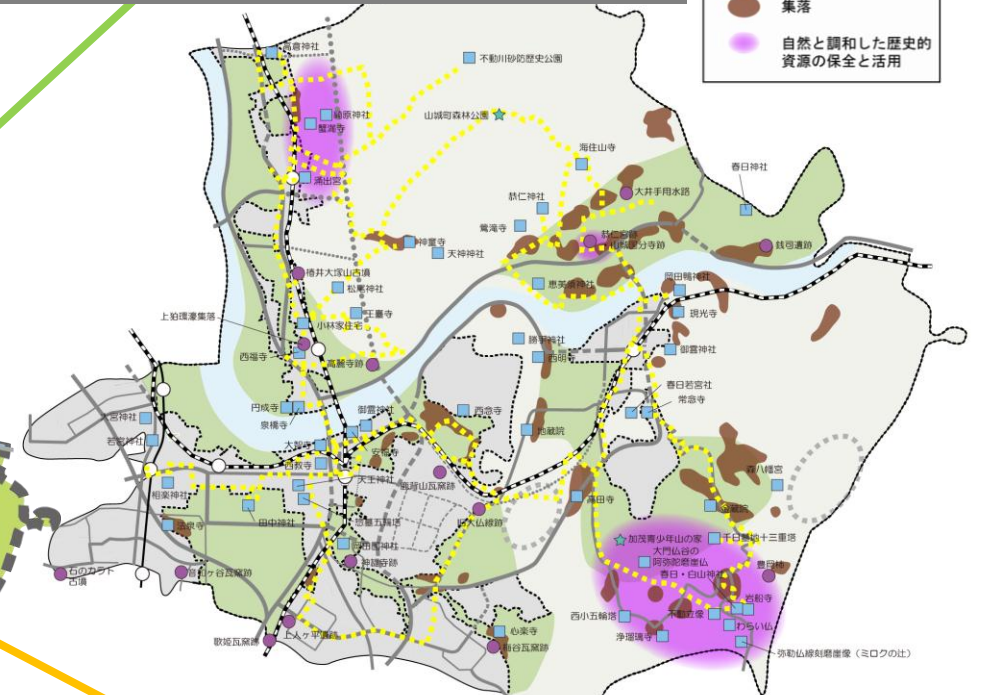


既成市街地(山城地域)

- 豊かな田園環境と調和した都市拠点の形成
- 環境と調和した良好な居住地の形成
- 産業地区の形成

農山村集落と農地、山林

- 豊かな自然環境の保全・活用
- 安心して住み続けられる農山村集落の形成
- 自然や歴史的文化遺産を活かした観光の環境づくり
- 生産性の高い農業環境づくり



既成市街地(加茂地域)

- 自然と歴史文化の里・加茂の玄関にふさわしい都市拠点の形成
- 環境と調和した良好な居住地の形成

関西文化学術研究都市(兜台・相楽台・木津川台)

- 成熟した学研都市の良好な住宅地、文化学術研究地区及びセンターゾーンの形成

既成市街地(木津地域)、木津駅東側地区

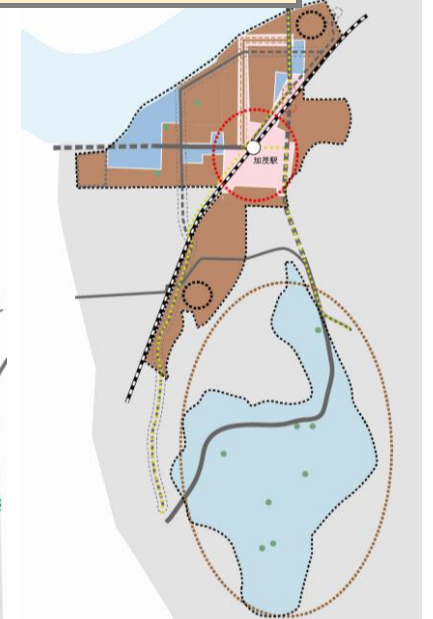
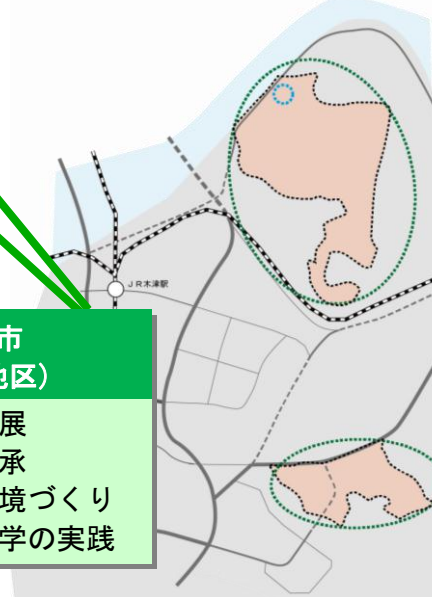
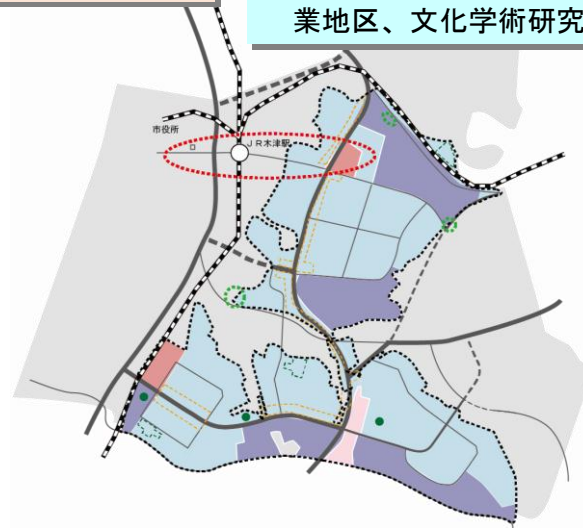
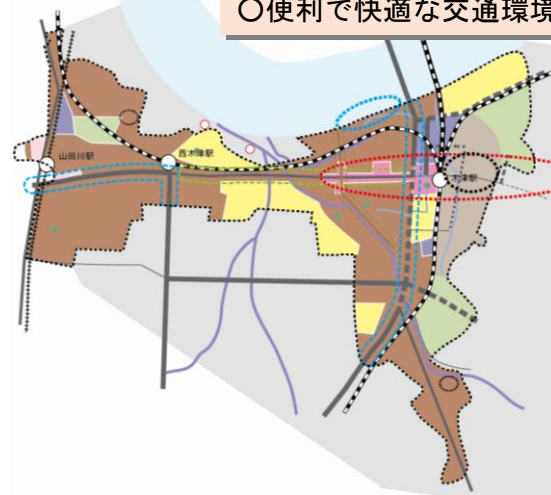
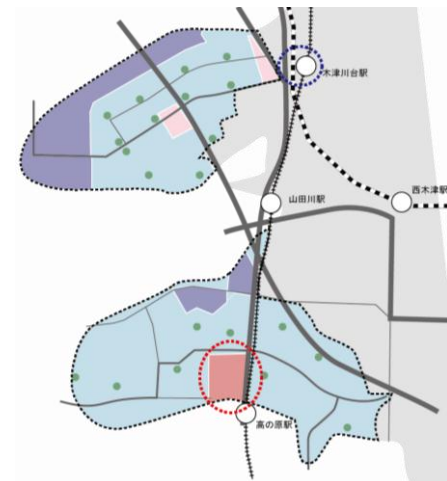
- 木津川市の活力を生む中心市街地の形成
- ずっと住み続けたいくなる良好な居住地の形成
- 便利で快適な交通環境の形成

関西文化学術研究都市(州見台・梅美台・城山台)

- 新たな時代の関西文化学術研究都市にふさわしい良好な住環境、商業地区、文化学術研究地区の形成

関西文化学術研究都市(木津東地区・木津北地区)

- 関西文化学術研究都市の発展
- 身近な自然の保全活用と継承
- 環境負荷を低減する生活環境づくり
- 持続可能な社会のための科学の実践



木津川市のまちづくりに関するアンケート調査 中間報告 概要

1. アンケート回収状況

- 配布数：5,500人
- 有効回収件数：2,022件（36.8%）

2. 回答者の属性等

- 回答者の性別については、住民基本台帳とほぼ同様の割合であった。
- 回答者のうち、60歳代以上が50.9%であった。
- 回答者の地域については、配布割合とほぼ同じであり、地域のばらつきはない。

3. 主な項目

- 木津川市の暮らしやすさについては、前回調査との比較で0.11ポイント以上の差はなく、暮らしやすさの評価に変化は見られない。（P4）
- 木津川市への愛着度については、「大いに感じている」「ある程度感じている」と回答した方が、前回調査から3.7ポイント増加している。（P23）
- 住民参加のまちづくりについて、「ほとんど参加していない」と回答した人が、前回調査から1ポイント増加している。（P21）

第2次総合計画策定に係る市民アンケート対象者抽出結果

アンケート対象者	60,566
無作為抽出者	5,500

◎抽出結果分析（住民基本台帳人口は、平成29年8月末現在）

性別	抽出者数(人)	割合(%)	住民基本台帳人口(人)	割合(%)	住民基本台帳人口(人) 18歳以上	割合(%)
男性	2,631	47.8	36,706	48.3	28,787	47.5
女性	2,869	52.2	39,321	51.7	31,779	52.5
合計	5,500	100.0	76,027	100.0	60,566	100.0

地域別	抽出者数(人)	割合(%)	住民基本台帳人口(人)	割合(%)	住民基本台帳人口(人) 18歳以上	割合(%)
木津地域	3,773	68.6	53,392	70.7	41,344	68.3
加茂地域	1,080	19.6	13,637	18.1	12,078	19.9
山城地域	647	11.8	8,483	11.2	7,144	11.8
合計	5,500	100.0	75,512	100.0	60,566	100.0

地域別	抽出者数(人)	割合(%)	住民基本台帳人口(人)	割合(%)	住民基本台帳人口(人) 18歳以上	割合(%)
木津地域	学研地域	2,515	36,872	48.8	27,560	45.5
	その他	1,258	16,520	21.9	13,784	22.8
	計	3,773	53,392	70.7	41,344	68.3
加茂地域	南加茂台	468	5,604	7.4	5,120	8.5
	その他	612	8,033	10.6	6,958	11.5
	計	1,080	13,637	18.1	12,078	19.9
山城地域	647	11.8	8,483	11.2	7,144	11.8
合計	5,500	100.0	75,512	100.0	60,566	100.0

※地域別の住民基本台帳人口は、日本人のみ
※端数四捨五入により合計が合わない場合がある

木津川市のまちづくりに関するアンケート調査

[単 純 集 計]

中 間 報 告

平成 29 年 11 月

— 目 次 —

1. 木津川市のまちづくりに関するアンケート調査.....	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査の概要	1
1.3 調査項目	2
1.4 調査結果	3

1. 木津川市のまちづくりに関するアンケート調査

1.1 調査の目的

第2次総合計画後の策定にあたり、市民の木津川市に対する満足度、政策・施策に関するニーズを把握するとともに、第1次総合計画による効果を検証するため調査を実施しました。

そのため、アンケート調査の内容等については、総合計画前期基本計画策定時に実施した同調査を基本的に踏襲するものとしています。

1.2 調査の概要

市民アンケート調査については、下表に示す通りに実施しました。調査対象者は、平成25年4月1日現在の木津川市民（外国人含む）で18歳以上の方（約57,600人）の約10%にあたる5,500人を無作為抽出法にて設定しました。

表 調査の概要

項目	詳細
調査の名称	木津川市のまちづくりに関するアンケート調査
調査主体	木津川市 マチオモイ部 学研企画課
母集団	市内在住の満18歳以上の方(外国人を含む)※ ※平成29年4月31日現在約75,600人
配布数	5,500人
サンプリングの方法	無作為抽出法
抽出台帳	住民基本台帳
調査票の配布回収方法	対象者に調査票を郵送し、回答後、郵送にて回収
実査時期	平成29年9月29日(金)~10月16日(月) ※平成29年10月24日到着分まで集計
有効回収件数（回収率）	2,022件（36.8%）

標本数については、下図に示す式に基づき、回収率も含めて、信頼度95%・誤差の幅を±3%で得ることができるよう前回と同数の5,500人と設定しました。

$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$	
α=母集団特性値の推定を誤る確率（危険率）（%）	5
100-α=信頼度（%）	95
K(α)=正規分布の性質から与えられる値	1.96
ε=標本比率につけるプラスマイナスの幅（%）	3
P=母比率（%）	50
N=母集団の大きさ	75,600
n=必要とされる標本数	1,048
※調査対象者数（標本数）の設定に当たっては、回収率も含めて、信頼度95%・誤差の幅を±3%で得ることができるよう、前回と同数の5,500人に設定。	

図 標本数(n)の決定方法

1.3 調査項目

主な調査項目を下表に示します。

表 主な調査項目

	項目	詳細
問1	暮らしやすさについて	木津川市の暮らしやすさについて、日頃どのように思っているか
問2	力を入れてほしい施策分野	限られた財政の中で、特に力を入れるべきと思う分野
問3	山の緑など自然環境について	景観・自然環境を保全するために優先すべき取り組み
問4	関西文化学術研究都市について	住みよい都市環境づくりに向けて必要な取り組み
問5	産業について	活性化のために必要な取り組み
問6	自然、観光、歴史遺産について	自然や歴史遺産を活かして魅力あるまちにするために必要な取り組み
問7	健康、保険、医療について	健康で快適に暮らせるようにするために必要な取り組み
問8	福祉について	生涯安心して豊かに暮らせる地域社会を形成するために必要な取り組み
問9	子育て・教育について	次代を担う子どもたちが健やかに育つために必要な取り組み
問10		小・中学校教育をさらに充実するために必要な取り組み
問11	防災について	地震や水害、火災に対し安心・安全なまちにするために必要な取り組み
問12	交通について	よく利用する移動手段
問13		コミュニティバスに関する交通施策の進め方
問14	道路整備について	国道や府道などの幹線道路について必要な取り組み
問15		生活道路について必要な取り組み
問16	ごみの減量化・資源化について	ごみの分別や減量化を進めるために必要な取り組み
問17	住民参加のまちづくりについて	区・自治会活動などのコミュニティ活動の参加状況
問18		NPOなどの非営利活動団体の活動やボランティア活動の参加状況
問19		市民協働で住みよいまちづくりを推進するために必要な取り組み
問20	木津川市について	市への愛着
問21		市のまちづくりに対する評価
問22		市民サービスに対する評価
問23	個人属性	性別
問24		年齢層
問25		郵便番号
問26		同居家族の人数
問27		同居する18歳未満の家族の人数
問28		同居する65歳以上の家族の人数
問29		居住年数
問30		居住経歴
その他	まちづくりに対する意見・提案	木津川市のまちづくりに対する意見・提案（自由記述）

1.4 調査結果

回答比率は、小数点第 1 位以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の設問についても、回答比率の合計が 100%を超える場合があります。

1) 木津川市の暮らしやすさについて

問 1 木津川市の暮らしやすさについて、日頃どのように思われていますか。以下の(1)～(27)の全ての項目について、それぞれあてはまるものを1つずつ選び番号に○をつけてください。

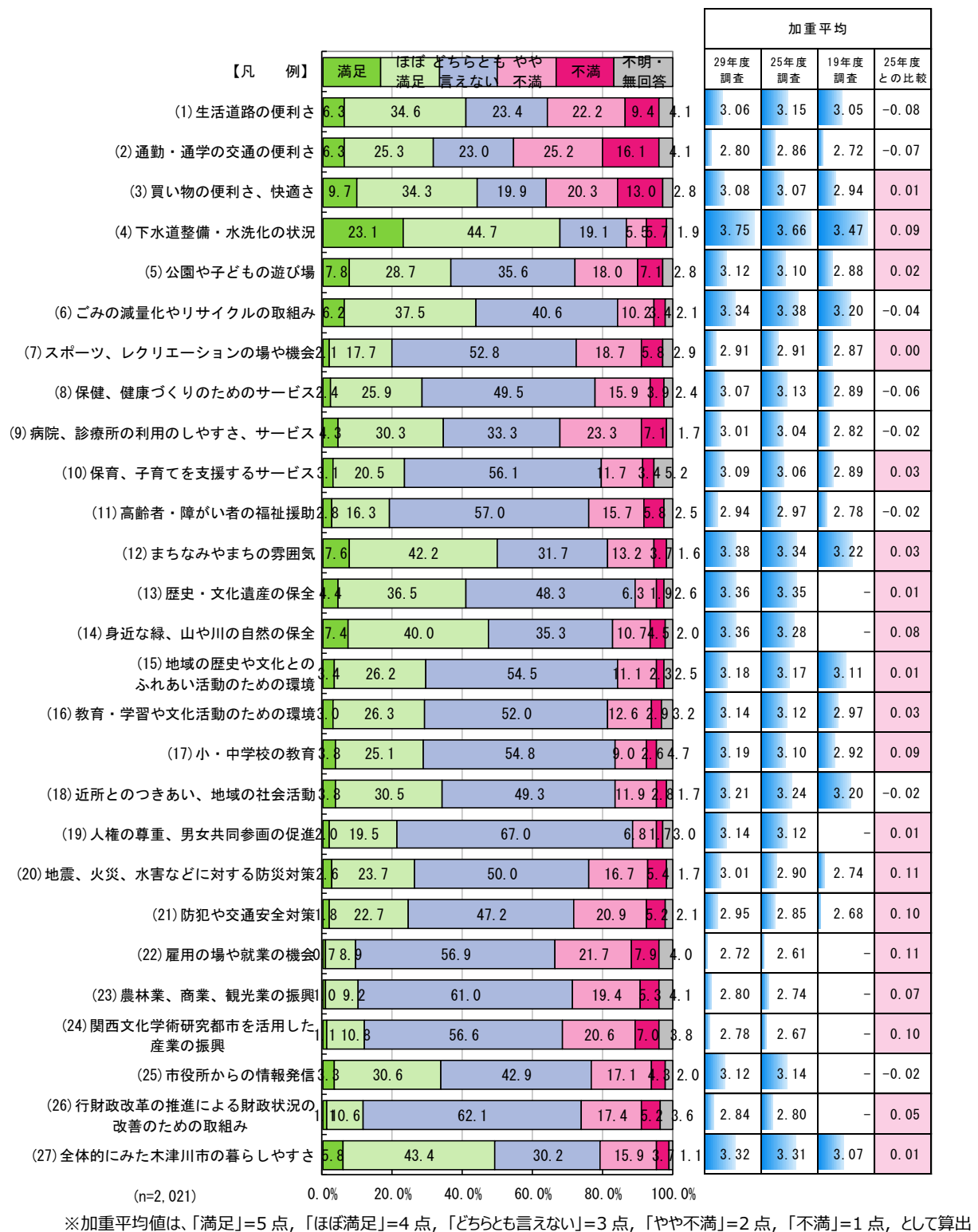


図 1.4.1 木津川市の暮らしやすさについて

2) 木津川市が今後取組むべき施策について

木津川市に力を入れてほしい施策分野

問2 あなたは木津川市が、今後、限られた財政の中で、特に力を入れるべきと思う分野はなんですか。次の中から3つ以内で選び番号に○をつけてください。

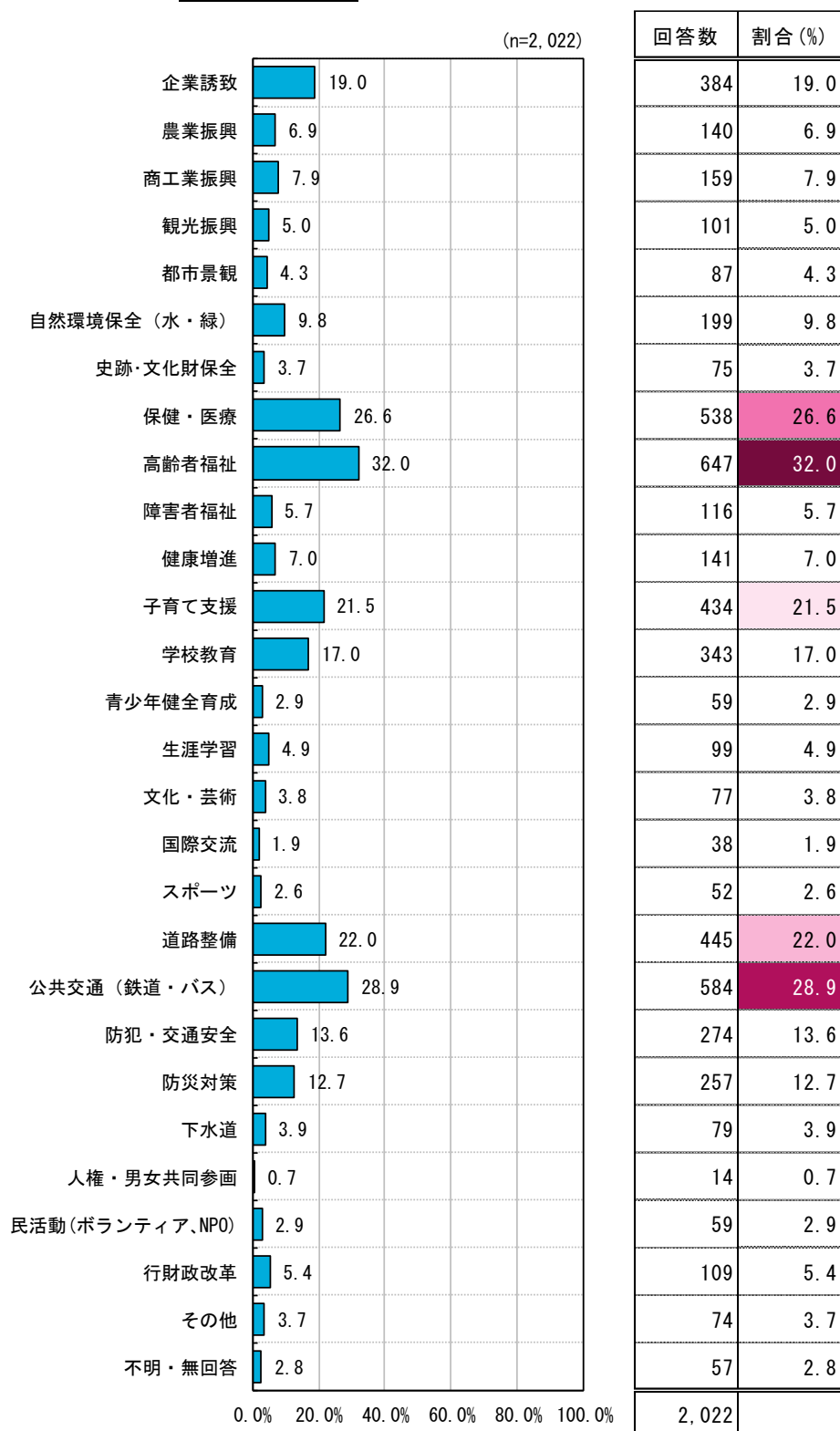
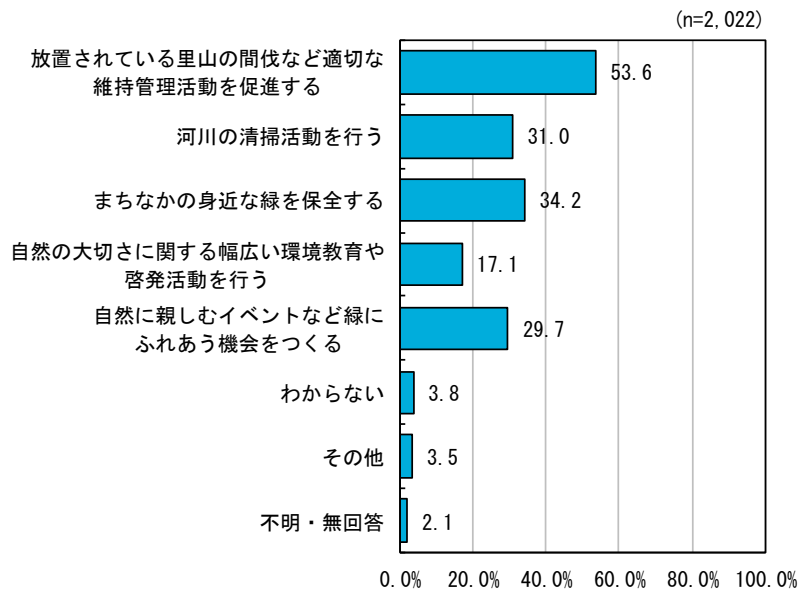


図 1.4.2 木津川市に力を入れてほしい施策分野

木津川や山の緑など自然環境について

問3 木津川市は木津川や山の緑など自然環境に恵まれたまちです。これらの景観・自然環境を保全するためには、どのような取組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

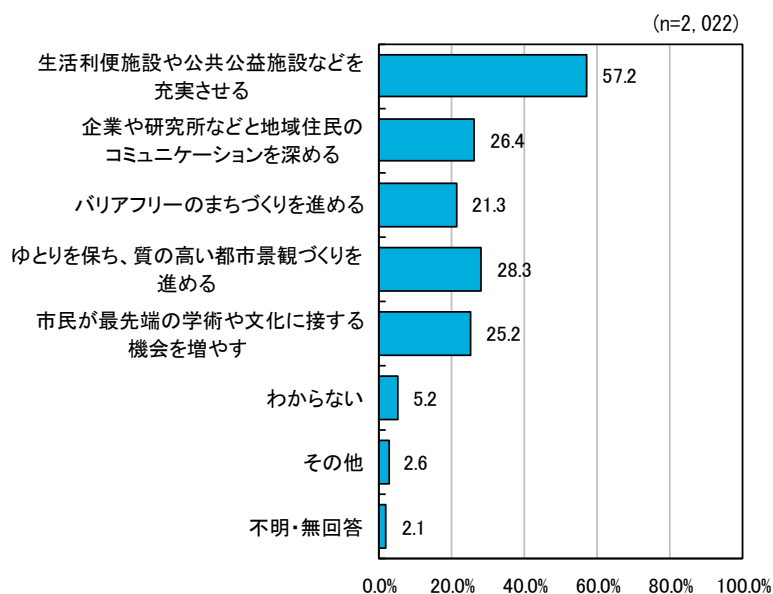


選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 放置されている里山の間伐など適切な維持管理活動を促進する	1,084	53.6	47.1	38.6
2 河川の清掃活動を行う	626	31.0	35.4	35.0
3 まちなかの身近な緑を保全する	692	34.2	40.0	28.7
4 自然の大切さに関する幅広い環境教育や啓発活動を行う	345	17.1	21.0	23.9
5 自然に親しむイベントなど緑にふれあう機会をつくる	600	29.7	27.3	27.9
6 わからない	77	3.8	3.2	3.6
7 その他	70	3.5	4.1	3.1
不明・無回答	43	2.1	2.1	2.4
回答者数	2,022			

図 1.4.3 木津川や山の緑など自然環境について

関西文化学術研究都市について

問 4 関西文化学術研究都市の住みよい都市環境づくりに向けてどのような取組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。



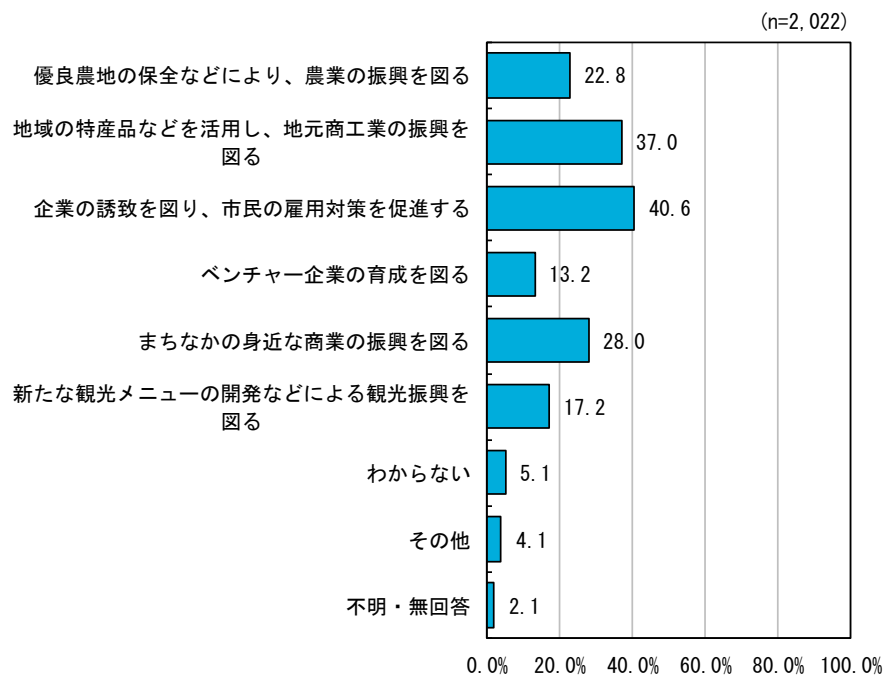
選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 生活利便施設や公共公益施設などを充実させる	1, 156	57. 2	58. 9	44. 0
2 企業や研究所などと地域住民のコミュニケーションを深める	533	26. 4	30. 7	33. 3
3 バリアフリーのまちづくりを進める	431	21. 3	25. 0	29. 3
4 ゆとりを保ち、質の高い都市景観づくりを進める	572	28. 3	39. 2	45. 3
5 市民が最先端の学術や文化に接する機会を増やす※	510	25. 2	—	—
6 わからない	105	5. 2	6. 4	6. 6
7 その他	52	2. 6	4. 3	5. 9
不明・無回答	42	2. 1	1. 9	2. 7
回答者数	2, 022			

※過年度調査にはなかった選択肢

図 1.4.4 関西文化学術研究都市について

産業について

問5 木津川市の活性化には、どのような取組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

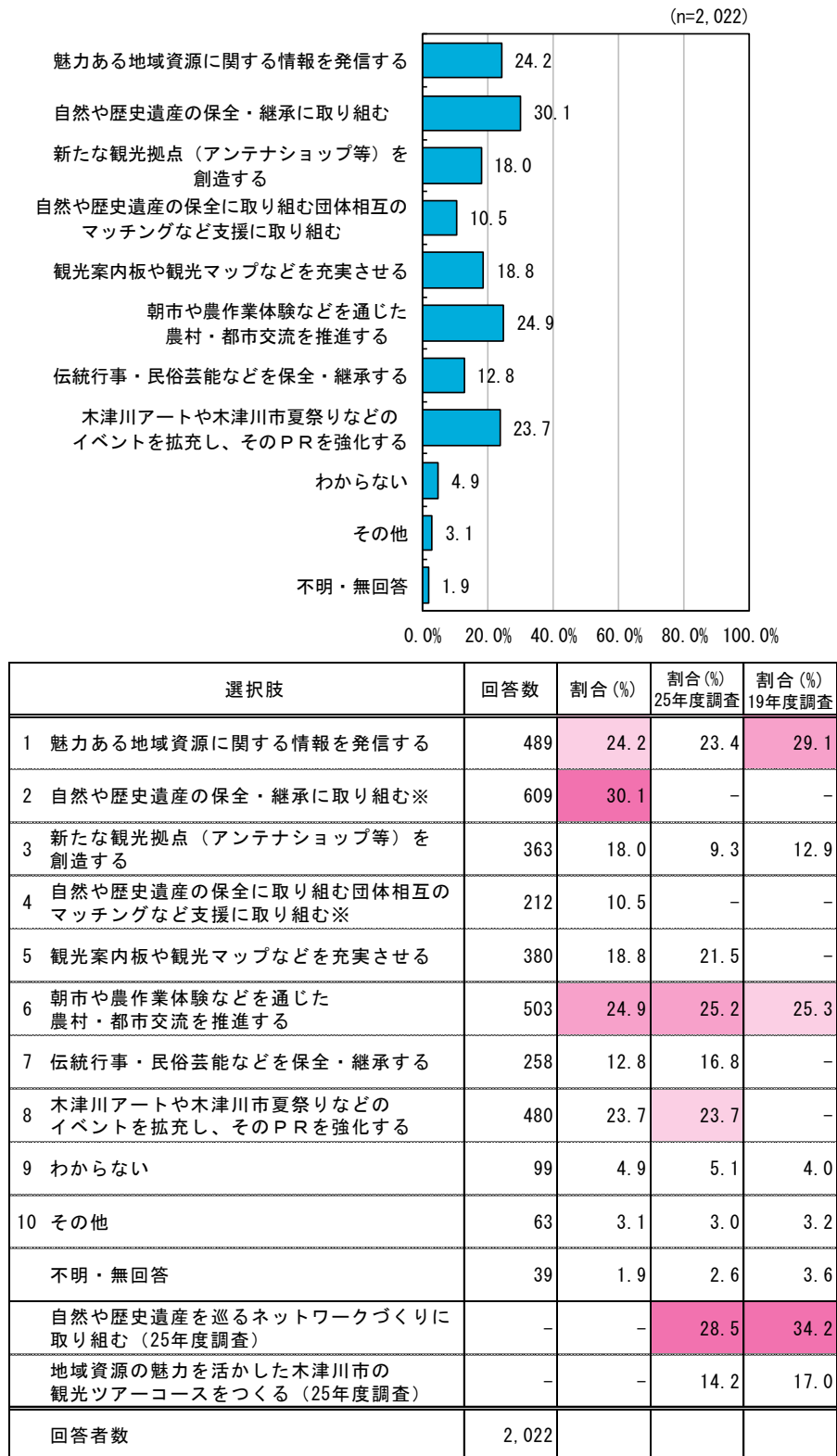


選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 優良農地の保全などにより、農業の振興を図る	461	22.8	23.9	28.9
2 地域の特産品などを活用し、地元商工業の振興を図る	748	37.0	39.9	39.2
3 企業の誘致を図り、市民の雇用対策を促進する	821	40.6	42.0	17.7
4 ベンチャー企業の育成を図る	266	13.2	11.5	31.1
5 まちなかの身近な商業の振興を図る	566	28.0	27.8	25.4
6 新たな観光メニューの開発などによる観光振興を図る	347	17.2	17.6	17.0
7 わからない	104	5.1	5.6	6.5
8 その他	82	4.1	3.2	3.1
不明・無回答	42	2.1	1.8	2.8
回答者数	2,022			

図 1.4.5 産業について

自然、観光、歴史遺産について

問 6 木津川市の豊かな自然や数多くの歴史遺産などを活かして魅力あるまちにするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

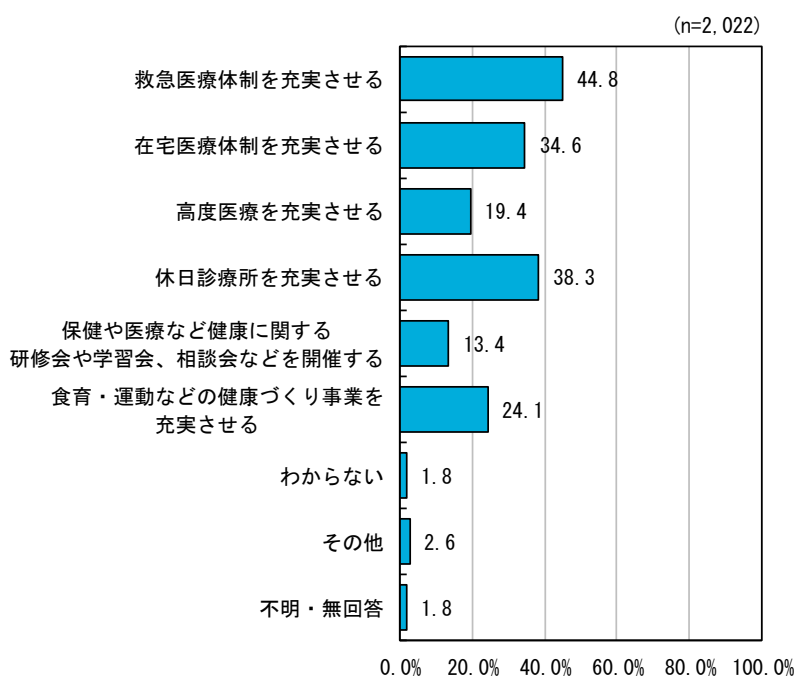


※25年度調査にはなかった選択肢

図 1.4.6 自然、観光、歴史遺産について

健康、保健、医療について

問 7 すべての人が健康で快適に暮らせるようにするためには、どのような取組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。



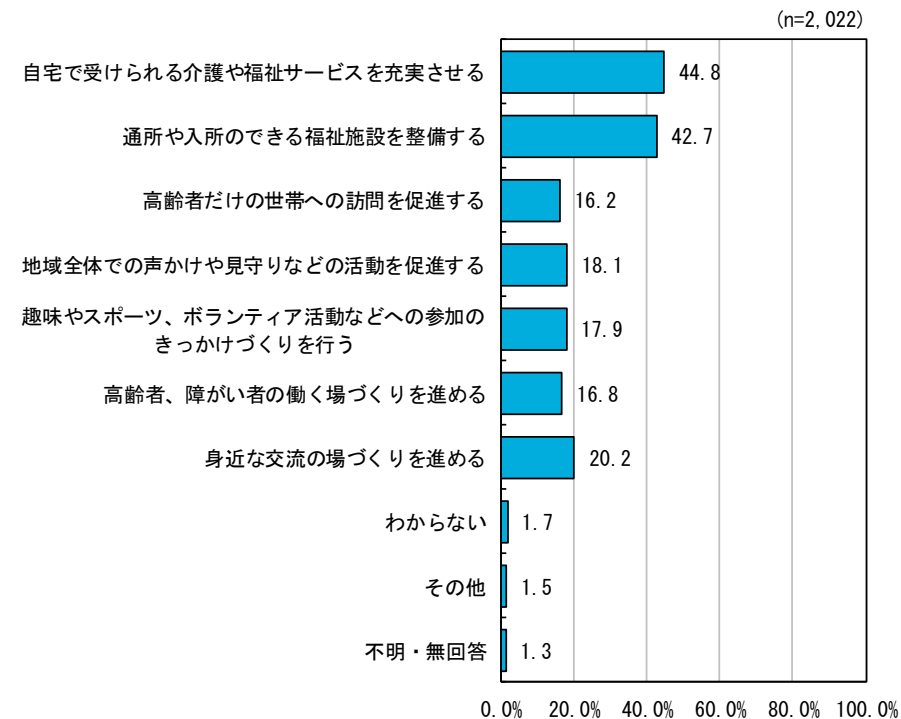
選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 救急医療体制を充実させる	906	44.8	55.6	72.2
2 在宅医療体制を充実させる	699	34.6	34.7	39.6
3 高度医療を充実させる	392	19.4	21.1	33.7
4 休日診療所を充実させる	774	38.3	42.5	—
5 保健や医療など健康に関する 研修会や学習会、相談会などを開催する	271	13.4	16.1	18.7
6 食育・運動などの健康づくり事業を 充実させる※	488	24.1	—	—
7 わからない	36	1.8	2.8	1.9
8 その他	53	2.6	3.6	5.7
不明・無回答	36	1.8	1.7	2.4
回答者数	2,022			

※過年度調査にはなかった選択肢

図 1.4.7 健康、保健、医療について

福祉について

問 8 すべての人が生涯安心して豊かに暮らせる地域社会を形成するためには、福祉の面からどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

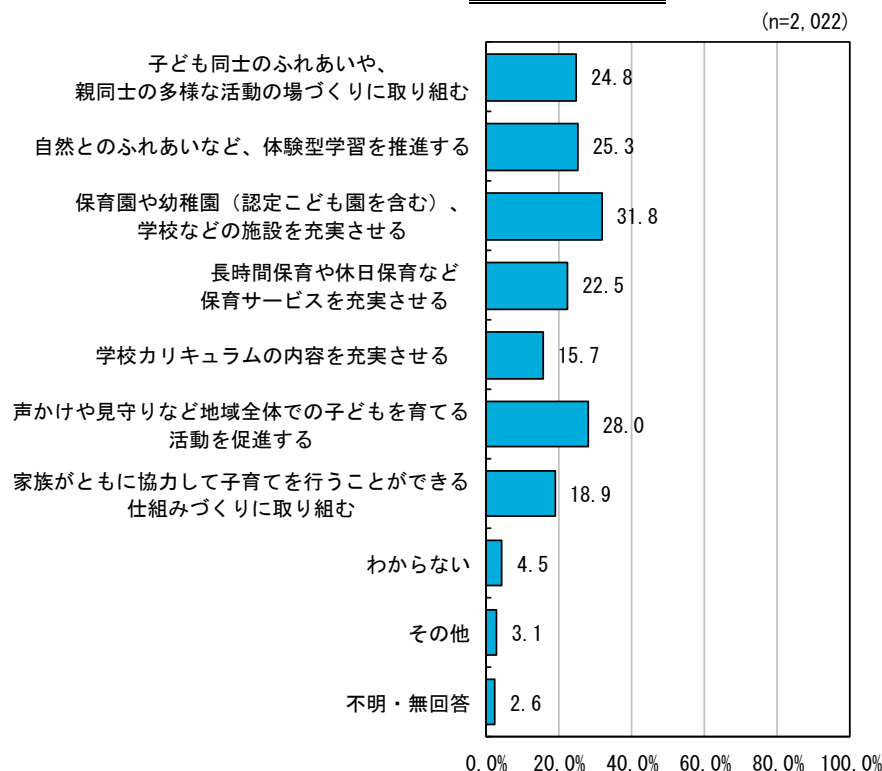


選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 自宅で受けられる介護や福祉サービスを充実させる	905	44.8	46.8	47.1
2 通所や入所のできる福祉施設を整備する	863	42.7	41.1	42.7
3 高齢者だけの世帯への訪問を促進する	328	16.2	16.4	13.7
4 地域全体での声かけや見守りなどの活動を促進する	366	18.1	19.8	21.0
5 趣味やスポーツ、ボランティア活動などへの参加のきっかけづくりを行う	362	17.9	18.4	17.3
6 高齢者、障がい者の働く場づくりを進める	339	16.8	15.2	19.3
7 身近な交流の場づくりを進める	409	20.2	18.3	18.1
8 わからない	35	1.7	2.1	1.4
9 その他	30	1.5	1.8	1.7
不明・無回答	27	1.3	1.8	2.1
回答者数	2,022			

図 1.4.8 福祉について

子育てについて

問9 次代を担う子どもたちが健やかに育つためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。
次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。



選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 子ども同士のふれあいや、親同士の多様な活動の場づくりに取り組む	502	24.8	29.3	28.2
2 自然とのふれあいなど、体験型学習を推進する	511	25.3	32.5	29.1
3 保育園や幼稚園（認定こども園を含む）、学校などの施設を充実させる	644	31.8	33.1	25.6
4 長時間保育や休日保育など保育サービスを充実させる※	454	22.5	—	—
5 学校カリキュラムの内容を充実させる※	317	15.7	—	—
6 声かけや見守りなど地域全体での子どもを育てる活動を促進する	566	28.0	32.4	34.7
7 家族がともに協力して子育てを行うことができる仕組みづくりに取り組む	383	18.9	15.8	14.5
8 わからない	92	4.5	4.3	3.1
9 その他	62	3.1	3.8	3.3
不明・無回答	53	2.6	2.3	3.0
保育サービスや学校カリキュラムを充実させる（H25年度調査）	—	—	23.3	19.1
回答者数	2,022			

※過年度調査にはなかった選択肢

図 1.4.9 子育てについて

教育について

問 10 小・中学校教育をさらに充実させるために、どのような教育に取り組む必要があると思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

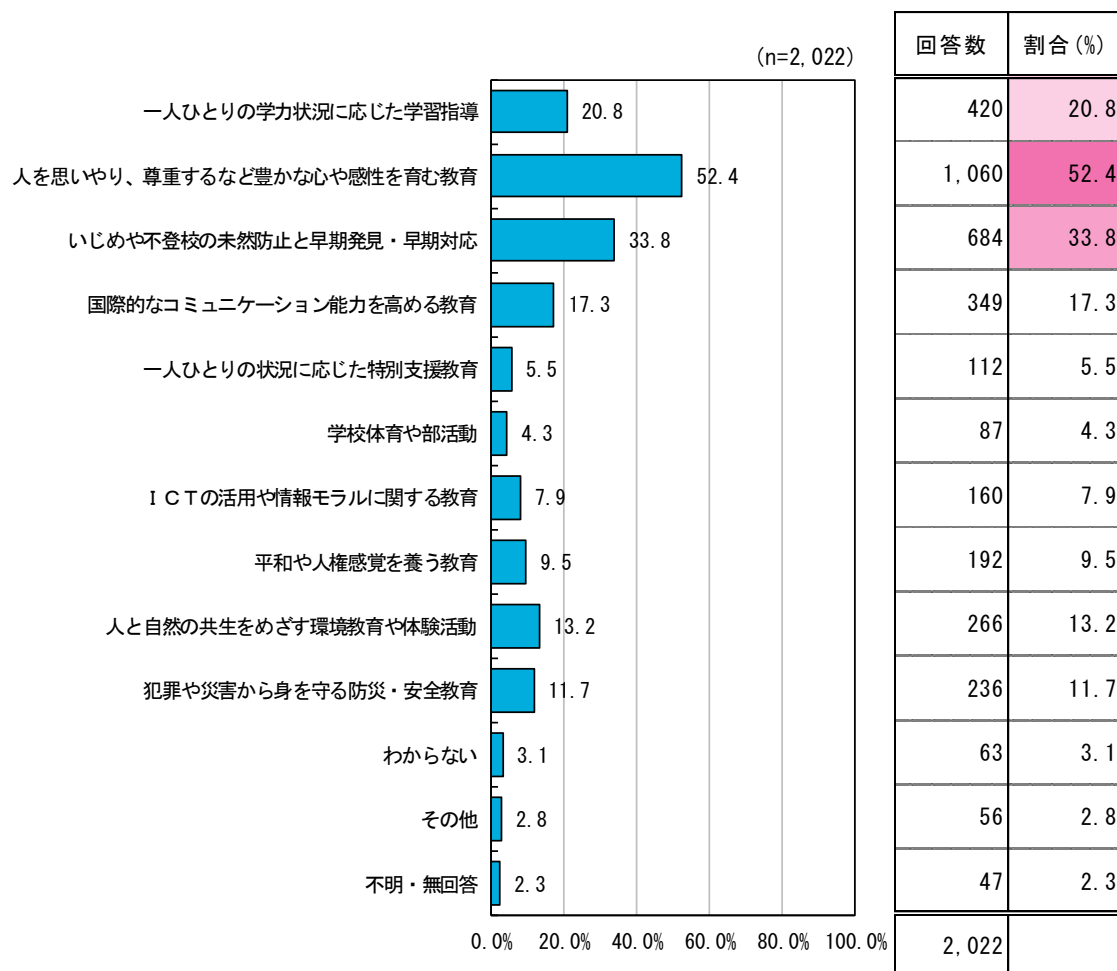
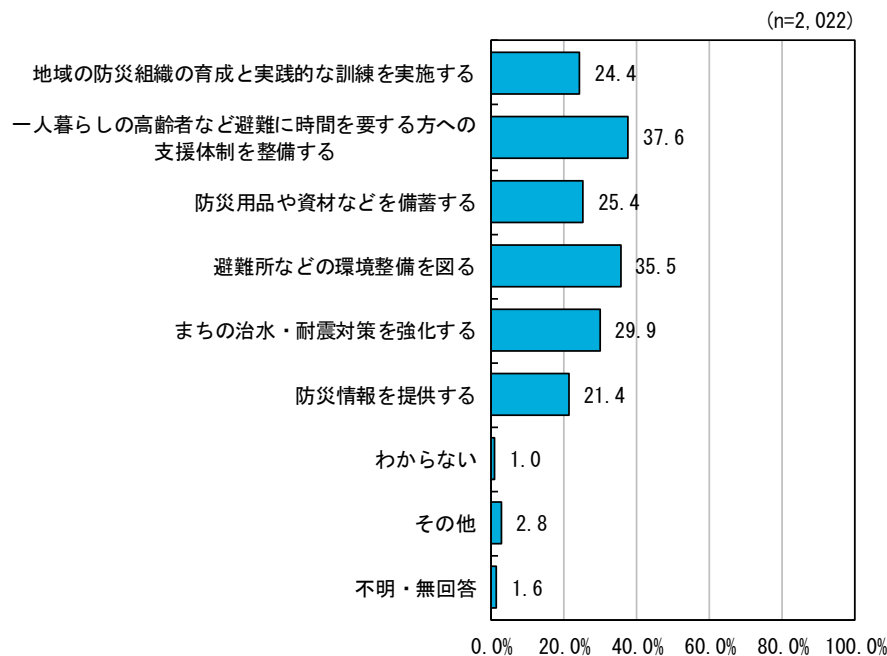


図 1.4.10 教育について

防災について

問 11 地震や水害、火災などの災害に対し、安心・安全なまちにするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

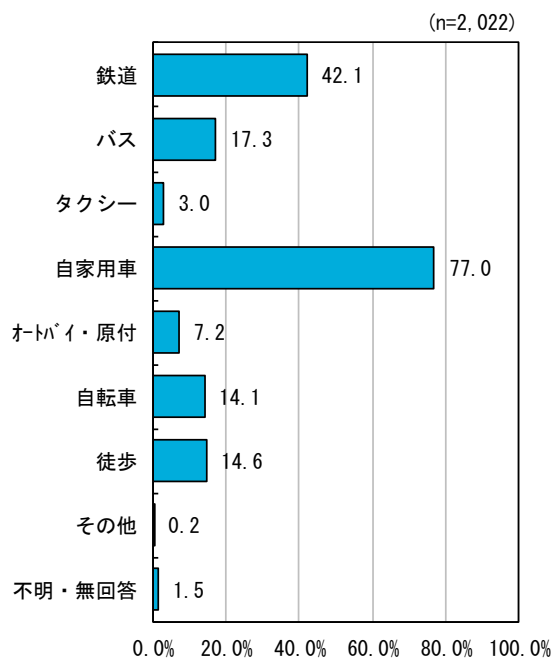


選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 地域の防災組織の育成と実践的な訓練を実施する	494	24.4	25.4	26.7
2 一人暮らしの高齢者など避難に時間を要する方への支援体制を整備する	761	37.6	34.9	42.2
3 防災用品や資材などを備蓄する	513	25.4	29.2	23.9
4 避難所などの環境整備を図る	717	35.5	41.8	41.5
5 まちの治水・耐震対策を強化する	605	29.9	26.2	22.2
6 防災情報を提供する	432	21.4	16.0	12.9
7 わからない	21	1.0	2.0	2.0
8 その他	57	2.8	2.1	1.6
不明・無回答	32	1.6	1.8	2.3
回答者数	2,022			

図 1.4.11 防災について

交通について

問 12 あなたがよく利用する移動手段は何ですか。次の中から2つ以内で選び番号に○をつけてください。

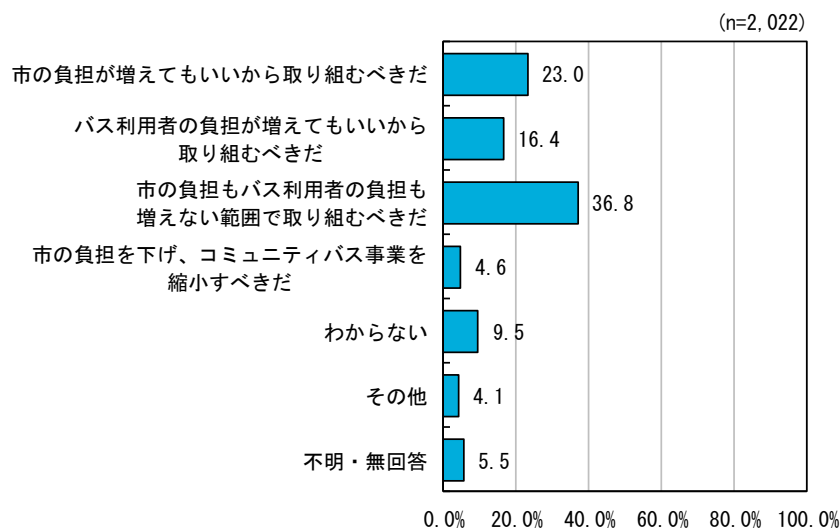


選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 鉄道	852	42.1	39.2	16.9
2 バス	349	17.3	15.6	5.5
3 タクシー	61	3.0	3.0	0.7
4 自家用車	1,557	77.0	76.0	61.9
5 オートバイ・原付	145	7.2	5.8	3.3
6 自転車	285	14.1	19.2	6.7
7 徒歩	296	14.6	16.1	3.6
8 その他	5	0.2	0.4	0.1
不明・無回答	30	1.5	1.2	1.3
回答者数	2,022			

※19年度調査では1つ選択

図 1.4.12 交通について

問 13 コミュニティバスに関する交通施策について、今後どのような考え方で進めるべきだと思いますか。次の中から1つ選び番号に○をつけてください。

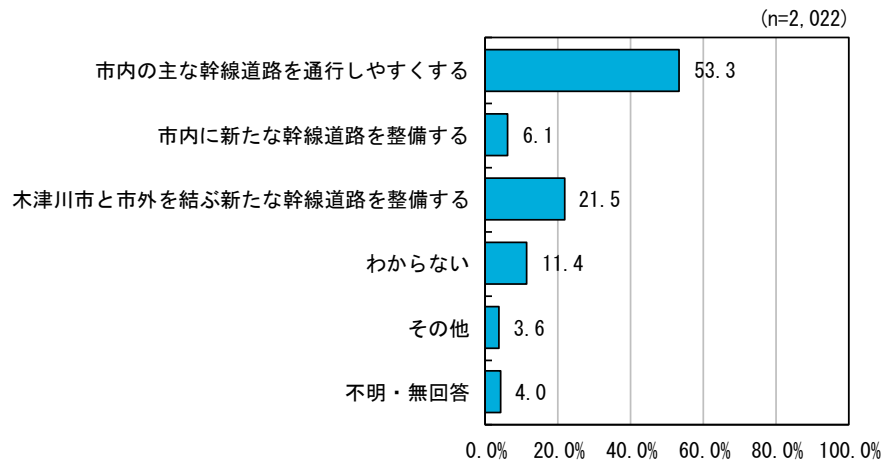


選 択 肢	回 答 数	割 合 (%)	割 合 (%) 25年度調査	割 合 (%) 19年度調査
1 市の負担が増えてもいいから取り組むべきだ	465	23.0	20.4	22.3
2 バス利用者の負担が増えてもいいから取り組むべきだ	332	16.4	14.0	14.5
3 市の負担もバス利用者の負担も増えない範囲で取り組むべきだ	744	36.8	37.7	39.4
4 市の負担を下げ、コミュニティバス事業を縮小すべきだ	94	4.6	6.0	5.2
5 わからない	193	9.5	10.1	9.8
6 その他	82	4.1	4.3	6.1
不明・無回答	112	5.5	7.5	2.8
回答者数	2,022			

図 1.4.13 コミュニティバスに関する交通施策について

道路整備について

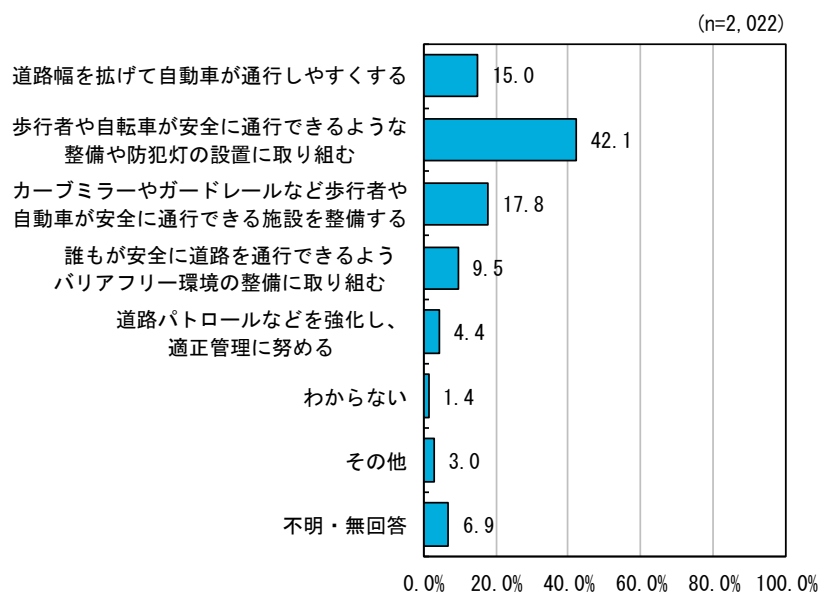
問 14 国道や府道などの幹線道路について、どのような取組みが必要だと思いますか。次の中から1つ選び番号に○をつけてください。



選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 市内の主な幹線道路を通行しやすくする	1,078	53.3	55.1	48.8
2 市内に新たな幹線道路を整備する	124	6.1	5.8	9.4
3 木津川市と市外を結ぶ新たな幹線道路を整備する	435	21.5	16.5	15.5
4 わからない	231	11.4	11.4	12.6
5 その他	73	3.6	4.8	9.7
不明・無回答	81	4.0	6.3	4.0
回答者数	2,022			

図 1.4.14 国道や府道などの幹線道路について

問 15 生活道路について、どのような取組みが必要だと思いますか。次の中から1つ選び番号に○をつけてください。



選択肢	回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
1 道路幅を拡げて自動車が通行しやすくする	303	15.0	13.3	11.6
2 歩行者や自転車が安全に通行できるような整備や防犯灯の設置に取り組む	851	42.1	38.8	33.9
3 カーブミラーやガードレールなど歩行者や自動車が安全に通行できる施設を整備する	360	17.8	18.8	13.3
4 誰もが安全に道路を通行できるようバリアフリー環境の整備に取り組む※	192	9.5	—	—
5 道路パトロールなどを強化し、適正管理に努める※	88	4.4	—	—
6 わからない	28	1.4	1.1	1.6
7 その他	60	3.0	3.2	2.9
不明・無回答	140	6.9	8.3	2.3
高齢者や障がい者に配慮した道路を整備する (25年度調査)	—	—	8.6	9.0
回答者数	2,022			

※過年度調査にはなかった選択肢

図 1.4.15 生活道路について必要な取組

ごみの分別や減量化について

問 16 ごみの分別や減量化を進めるためには、どのような取組みが必要だと思いますか。次の中から 1つ選び 番号に○をつけてください。

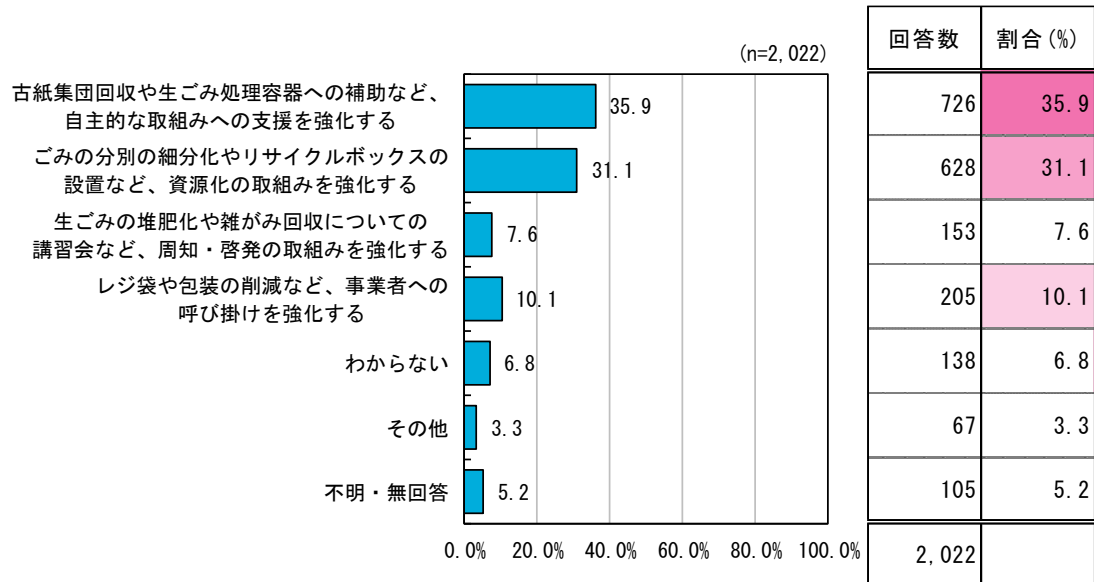
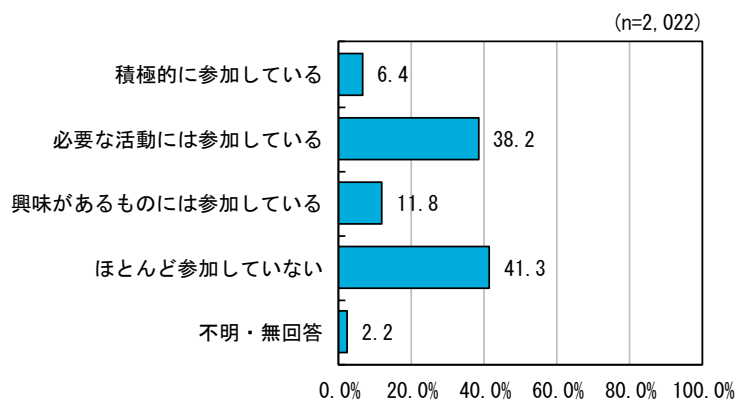


図 1.4.16 ごみの分別や減量化について

住民参加のまちづくりについて

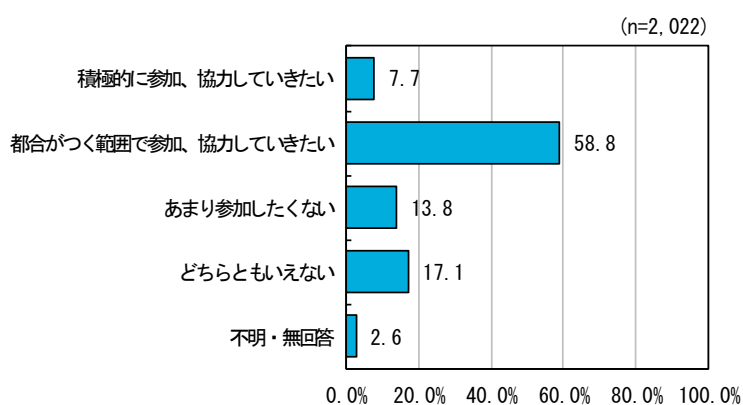
問 17 あなたは現在、地域での区・自治会活動などのコミュニティ活動にどのように参加していますか。また、今後はどのように参加しようと思いますか。(1) 現在・(2) 今後について、それぞれあてはまるものを1つずつ選び番号に○をつけてください。

(1) 現 在



回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
129	6.4	7.2	6.9
773	38.2	38.6	40.8
239	11.8	11.9	11.4
836	41.3	40.3	37.8
45	2.2	1.9	3.0
2,022			

(2) 今 後

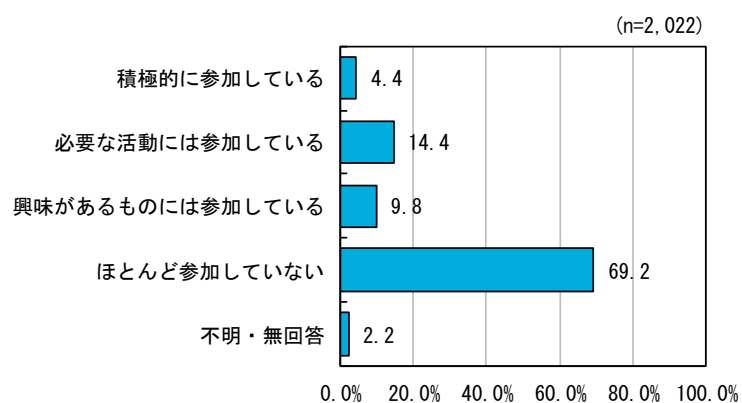


回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
156	7.7	8.0	8.4
1,189	58.8	59.7	64.2
279	13.8	12.5	11.0
345	17.1	17.4	13.0
53	2.6	2.5	3.3
2,022			

図 1.4.17 地域での区・自治会活動などのコミュニティ活動への参加

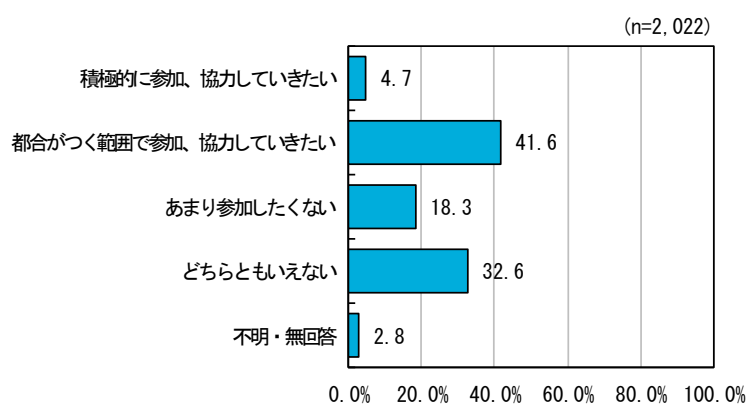
問 18 あなたは、区・自治会活動以外のNPOなどの非営利活動団体の活動やボランティア活動にどのように参加していますか。また、今後はどのように参加したいと思いますか。(1) 現在・(2) 今後について、それぞれあてはまるものを1つずつ選び番号に○をつけてください。

(1) 現 在



回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
89	4.4	4.2	4.3
292	14.4	14.6	15.8
198	9.8	9.1	8.1
1,399	69.2	70.1	68.7
44	2.2	2.1	3.1
2,022			

(2) 今 後



回答数	割合 (%)	割合 (%) 25年度調査	割合 (%) 19年度調査
95	4.7	5.0	6.1
842	41.6	44.2	46.7
370	18.3	17.0	13.2
659	32.6	31.2	30.6
56	2.8	2.6	3.4
2,022			

図 1.4.18 NPOなどの非営利活動団体の活動やボランティア活動への参加

問 19 市民と行政が協働で地域の課題解決や住みよいまちづくりを推進していくために、市が優先的に取り組むべきことは何だと思われますか。次の中から特に優先すべきと思うものを2つ以内で選び番号に○をつけてください。

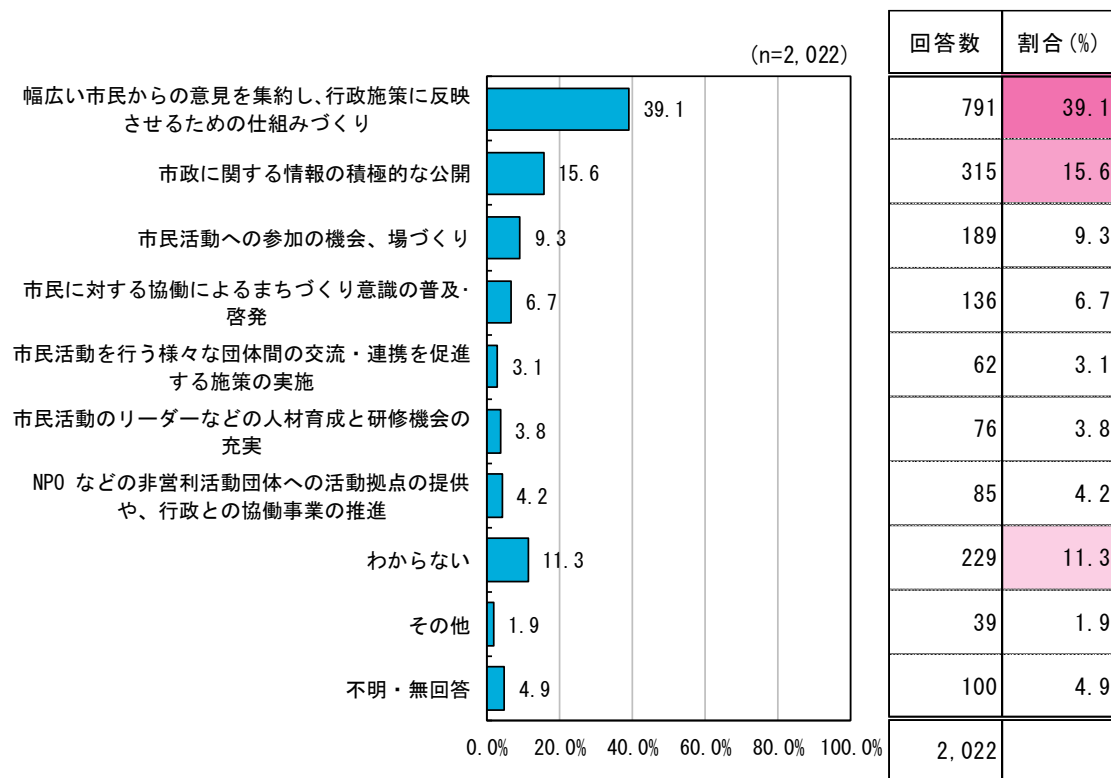


図 1.4.19 市が優先的に取り組むべきこと

3) 合併後の木津川市について

問 20 あなたは、木津川市に愛着を感じていますか。あてはまるものを 1つ選び 番号に○をつけて下さい。

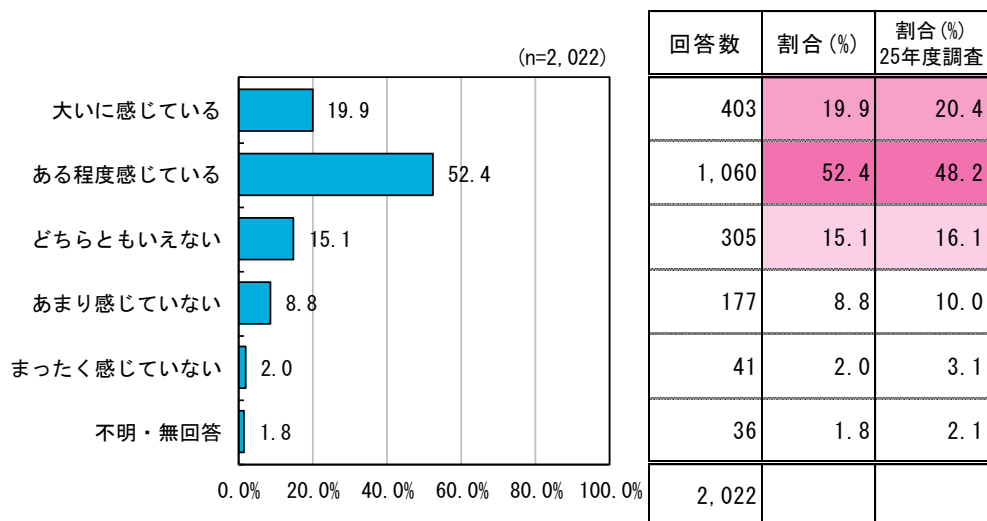


図 1.4.20 木津川市への愛着

問 21 あなたは、木津川市が進めてきたまちづくり（道路整備、都市計画、産業、観光など）についてどう思いますか。あてはまるものを 1つ選び 番号に○をつけて下さい。

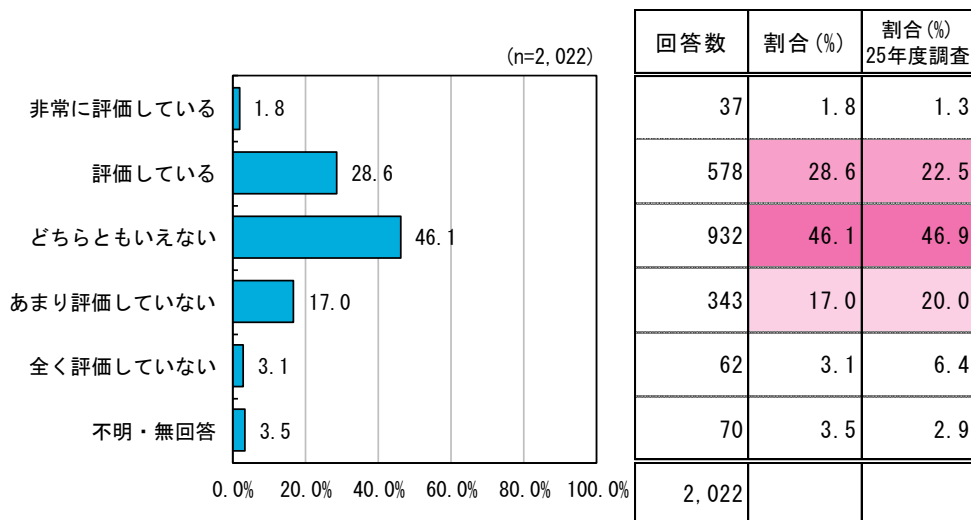


図 1.4.21 、木津川市が進めてきたまちづくりについて

問 22 あなたは、合併後の木津川市の市民サービス（福祉、教育、医療など）についてどう思いますか。あてはまるものを 1つ 選び番号に○をつけて下さい。

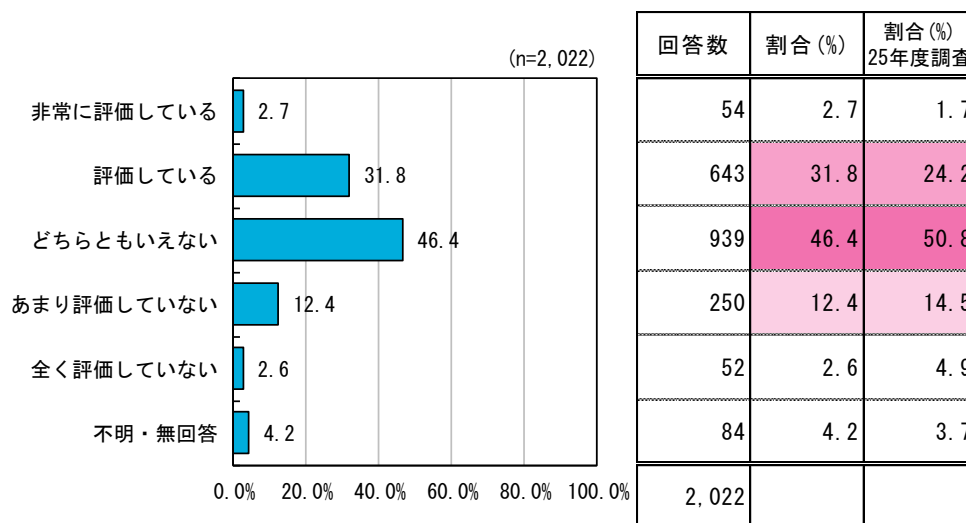


図 1.4.22 合併後の木津川市の市民サービスについて

4) 個人属性

問 23 あなたの性別はどちらですか。いずれかの番号に○をつけて下さい。

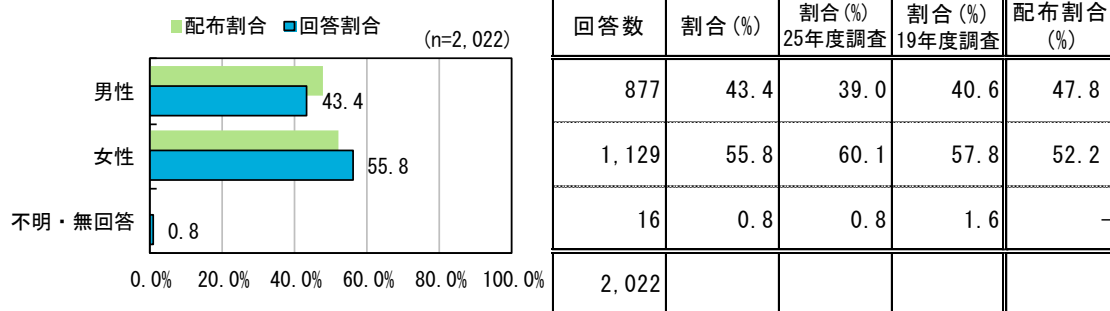


図 1.4.23 性別

問 24 あなたは何歳ですか。あてはまるものを1つ選び番号に○をつけて下さい。

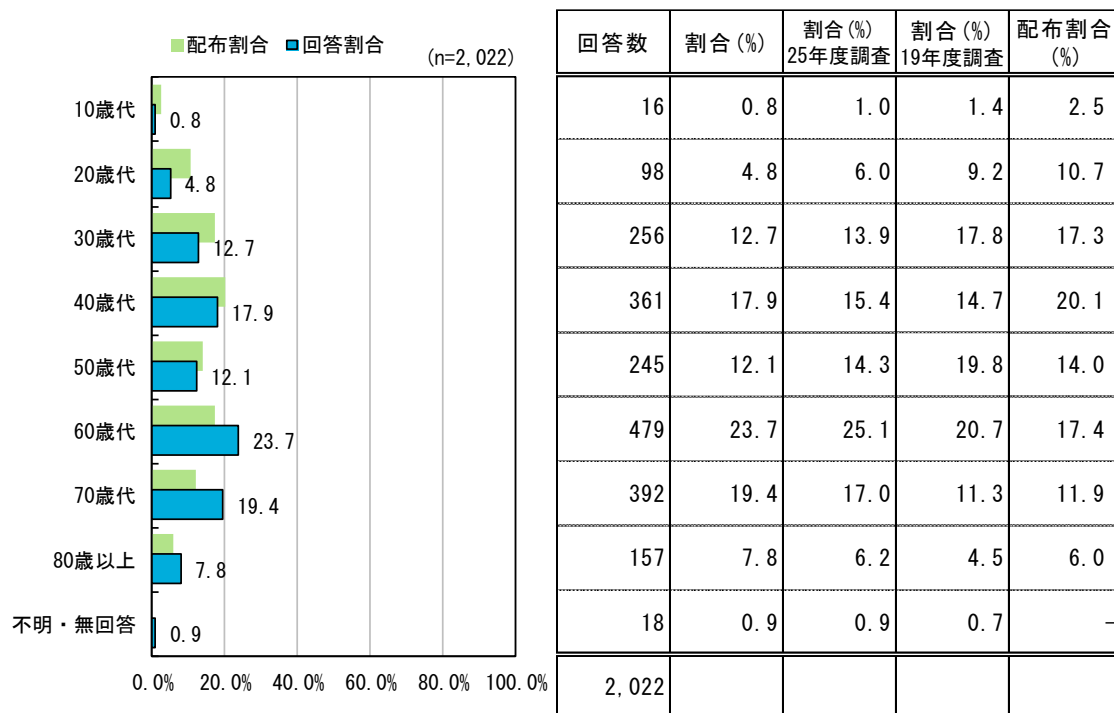


図 1.4.24 年齢

問 25 あなたがお住まいの郵便番号をお答えください。

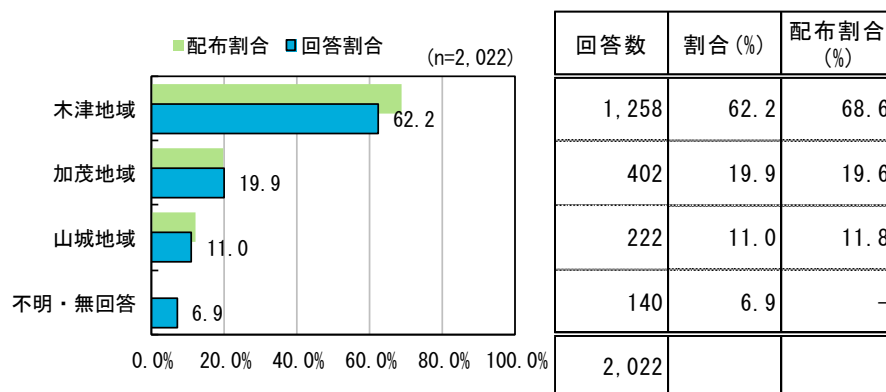


図 1.4.25 居住地

問 26 あなたと同居しているご家族は何名ですか（あなたを含む）。あてはまるものを 1 つ 選び番号に○をつけて下さい。

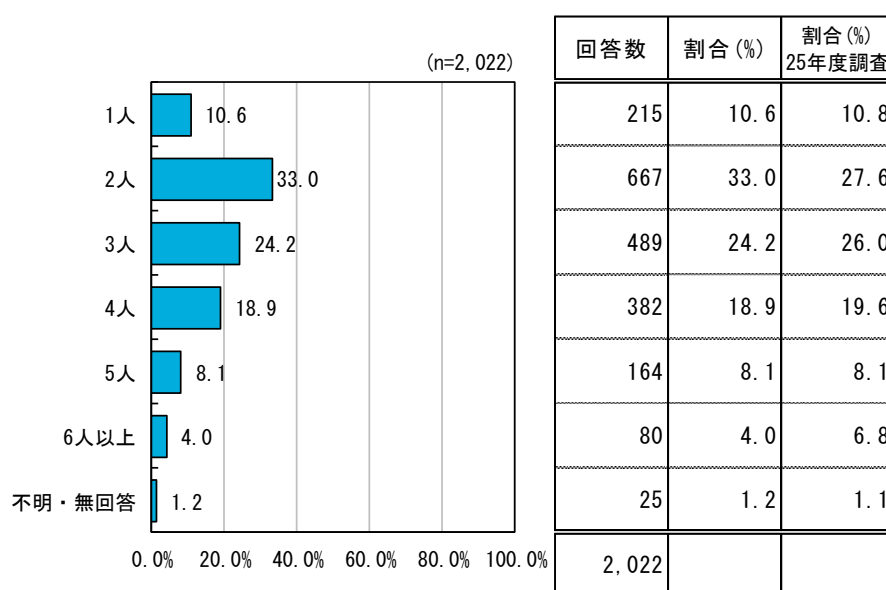


図 1.4.26 同居の家族人数

問 25 あなたと同居しているご家族に 18 歳未満の方はおられますか。 いずれかの番号に○をつ
けて下さい。

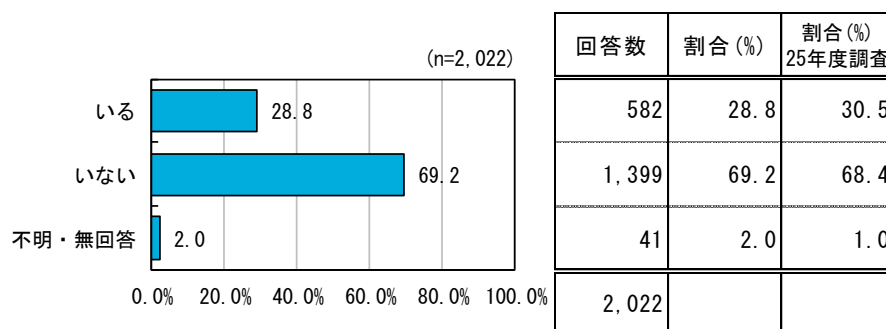


図 1.4.27 18 歳未満の家族の有無

問 26 あなたと同居しているご家族に 65 歳以上の方はおられますか（あなたを含む）。 いづれ
かの番号に○をつけて下さい。

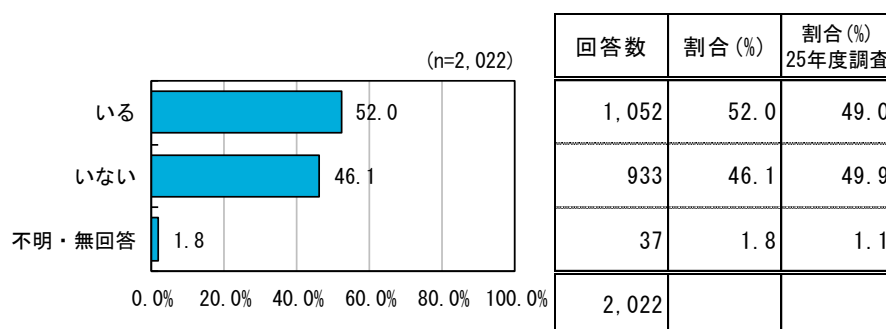


図 1.4.28 65 歳以上の家族の有無

問 27 あなたは、木津川市にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものを 1つ選び 番号に○をつけて下さい。

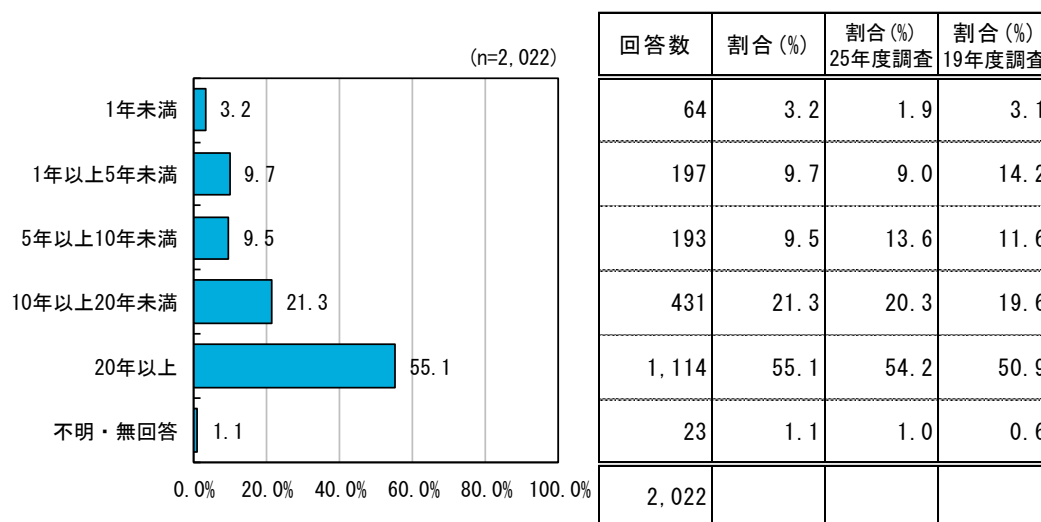


図 1.4.29 居住年数

問 28 あなたの木津川市居住経歴について、あてはまるものを 1つ選び 番号に○をつけて下さい。

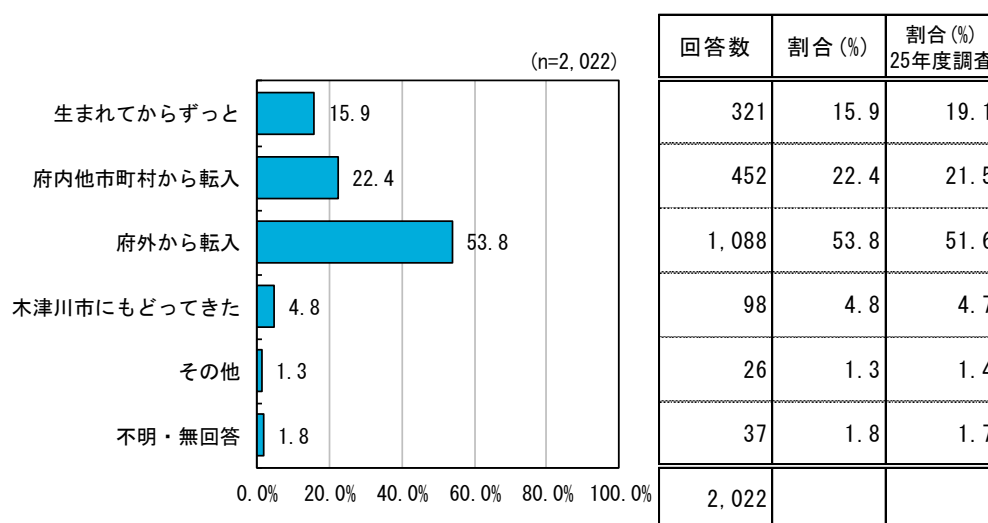


図 1.4.30 居住歴

その他 自由記述

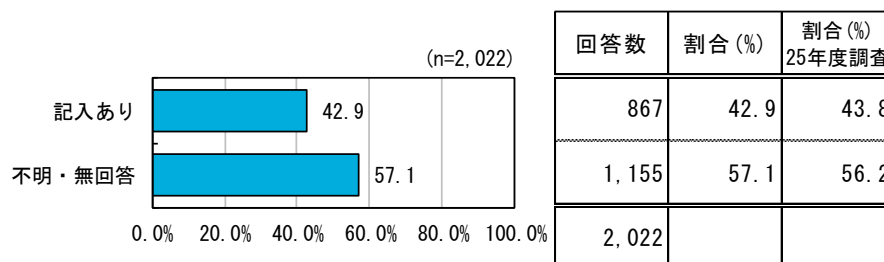


図 1.4.31 自由記述

木津川市のまちづくりに関する 中学生アンケート調査結果 概要

1. アンケート回収状況

- 対 象 人 数：745人（市立中学校に通学する中学2年生）
- 有効回収件数：730件（98.0%）

2. 主な項目

- 「住みよい」「どちらかと言えば住みよい」の回答は、全体の7割を超えているが、前回調査と比較して、6.6ポイント減少している。
- 木津川市への定住意識については、「ずっと住み続けたい」「一時的に離れてもまた戻ってきて住みたい」の回答は、全体の4割を占めているが、前回調査と比較して、10.2ポイント減少している。
- 自由記述内容については、教育環境の整備（おもに教室へのエアコン設置）の記載が多く見られた。

木津川市のまちづくりに関する中学生アンケート調査

報 告 書

— 目 次 —

1.	調査概要.....	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査の内容	1
1.3	調査項目	1
1.4	調査結果	2

1. 調査概要

1.1 調査の目的

木津川市の将来を担って頂くことになる中学生世代のニーズ、まちづくりに対する希望、木津川市は将来的に永住したいまちであるかどうか、永住したいまちにするには何が必要か等を伺います。また、この調査票に記入することにより、木津川市への愛着や行政に対する関心を持っていただこうとするものです。

1.2 調査の内容

市立中学校に通学する中学2年生全生徒745人を対象とします。調査は平成29年9月に、中学校を経由して配布・回収を行い実施しました。

表 調査の概要

項目	詳細
調査の名称	木津川市のまちづくりに関する中学生アンケート調査
調査主体	木津川市 マチオモイ部 学研企画課
母集団	市立中学校に通学する中学2年生 745人
サンプリングの方法	全数調査
調査票の配布回収方法	学校を通じて、調査票を配布及び回収
実査時期	平成29年9月11日(月)~22日(金)
有効回収数	730件 (98.0%)

1.3 調査項目

主な調査項目は、下表に示す通りです。

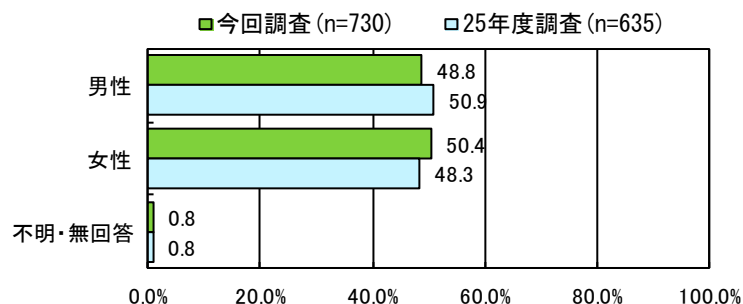
表 主な調査項目

	項目	詳細
問1	個人属性	性別
問2	木津川市の住みやすさ	木津川市を住みよいまちだと思うか
問3	定住意向	木津川市に今後も住み続けたいと思うか
問4	定住のための要素	木津川市に住み続けるには、どのようなことが必要か
問5	自慢したいところ	木津川市のどのようなところを自慢したいと思うか (自然や場所などのほか、人や物も含めて)
問6	目指す将来のすがた	木津川市の市長になったとしたら、どのようなまちにしていきたいか
その他	まちづくりに対する意見・提案	木津川市のまちづくりに対する意見・提案 (自由記述)

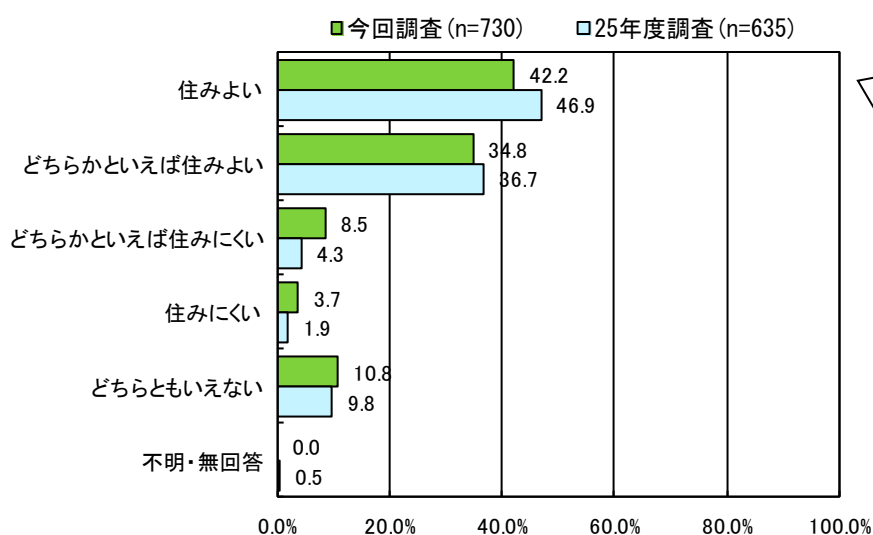
1.4 調査結果

回答比率は、小数点第1位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
また、複数回答の設問についても、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

問1 あなたの性別はどちらですか。あてはまるものに○をつけて下さい。

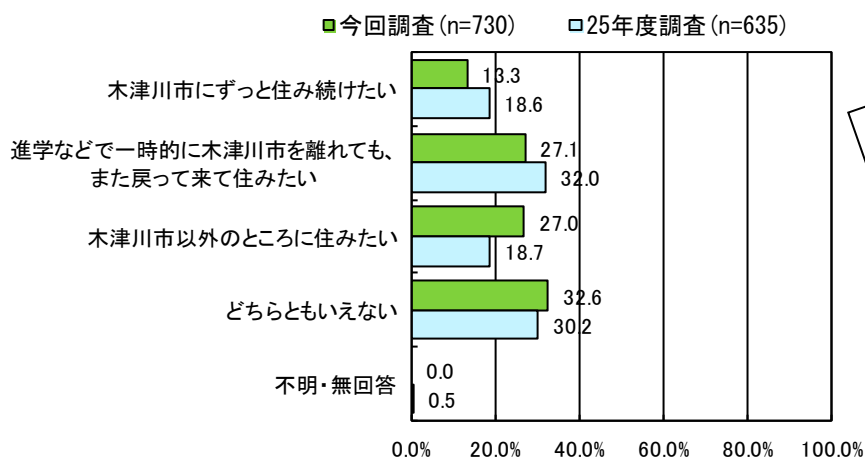


問2 あなたは、木津川市を住みよいまちだと思いますか。あてはまるものを1つ選び○をつけて下さい。



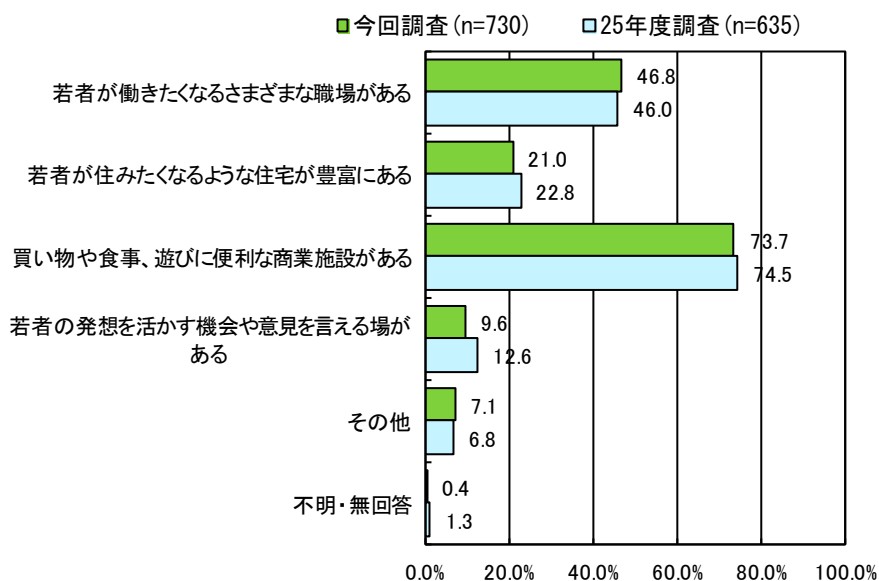
「住みよい」、「どちらかとい
えば住みよい」を合わせ全
体の7割を超えている
25年調査と比べて、「住
みよい」、「どちらかとい
えば住みよい」あわせて6.6
ポイント減少している。

問3 あなたは、今後も木津川市に住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選び○をつけて下さい。



「一時的に離れてもまた
戻ってきて住みたい」が最
も多く、「ずっと住み続けたい」と合わせると全体の4
割を占める
25年調査と比べて、「ず
っと住み続けたい」は5.3
ポイント、「一時的に離れ
てもまた戻ってきて住みた
い」は4.9ポイント減少し
おり、「木津川市以外に
住みたい」は8.3ポイント
増加している

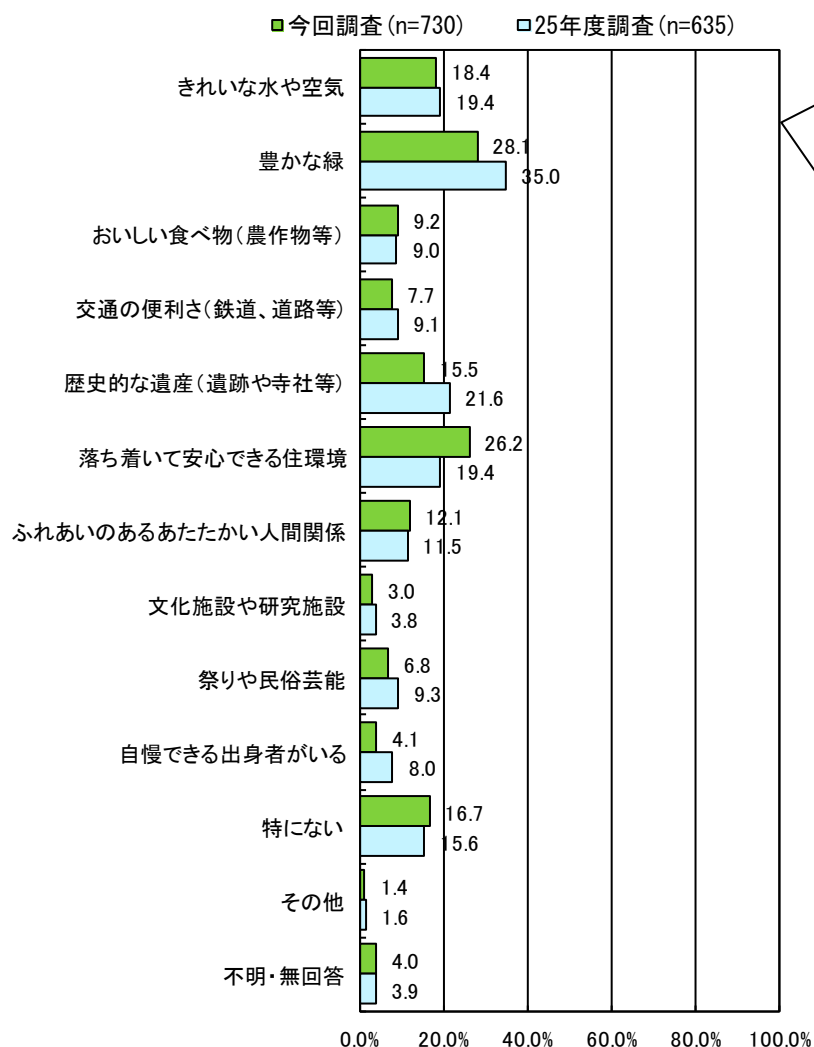
問4 あなたが木津川市に住み続けるには、どのようなことが必要ですか。あてはまるものを2つ以内で選び○をつけて下さい。



「買い物や食事・遊びに便利な商業施設」があるが最も多く、次いで「働きたくなる職場がある」となっている

日常生活に必要な施設や娯楽施設等が市内に充足している状態を求めていると考えられる

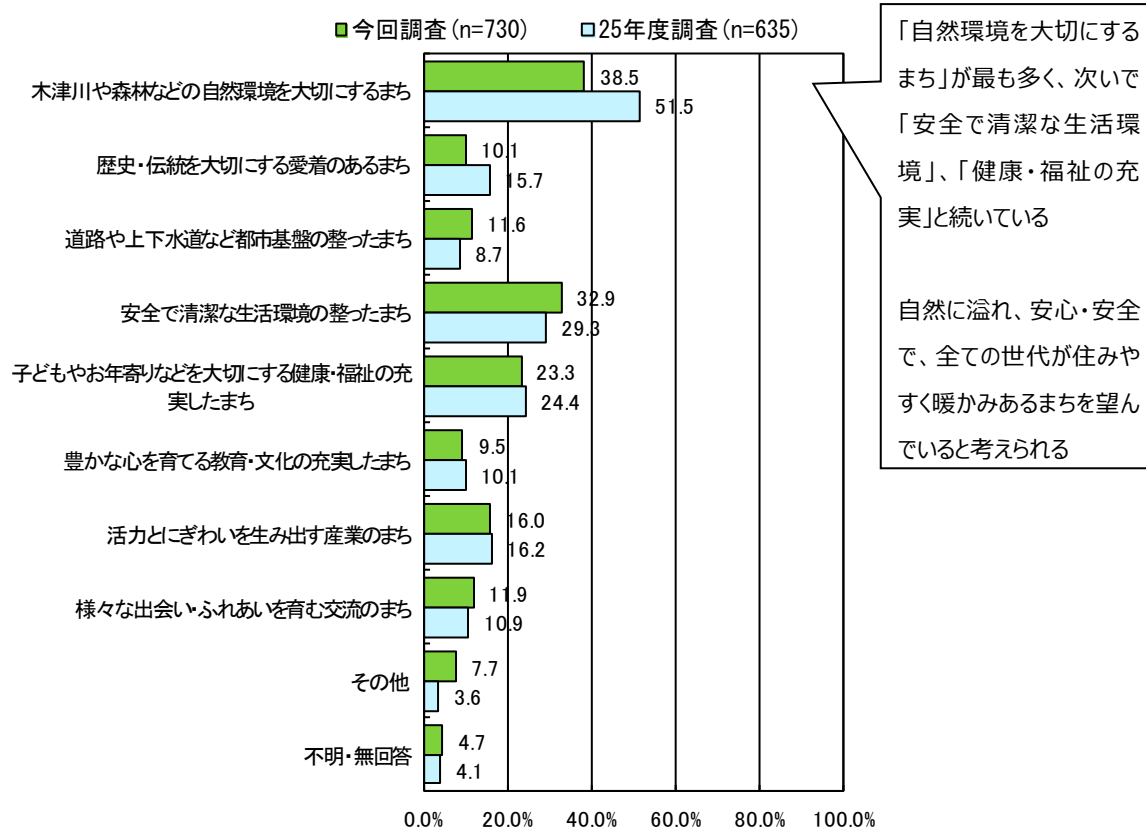
問5 あなたは、現在の木津川市のどのようなところ（自然や場所などのほか、人や物も含めて）を自慢したいと思いますか。あてはまるものを2つ以内で選び○をつけて下さい。



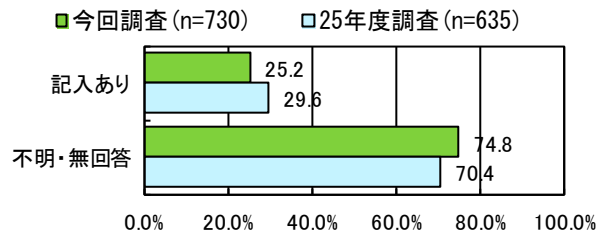
「豊かな緑」が最も多く、次いで「落ち着いて安心できる住環境」、「きれいな水や空気」と続いている

自然や歴史・文化に溢れた、安らぎのある環境を最も評価していると考えられる

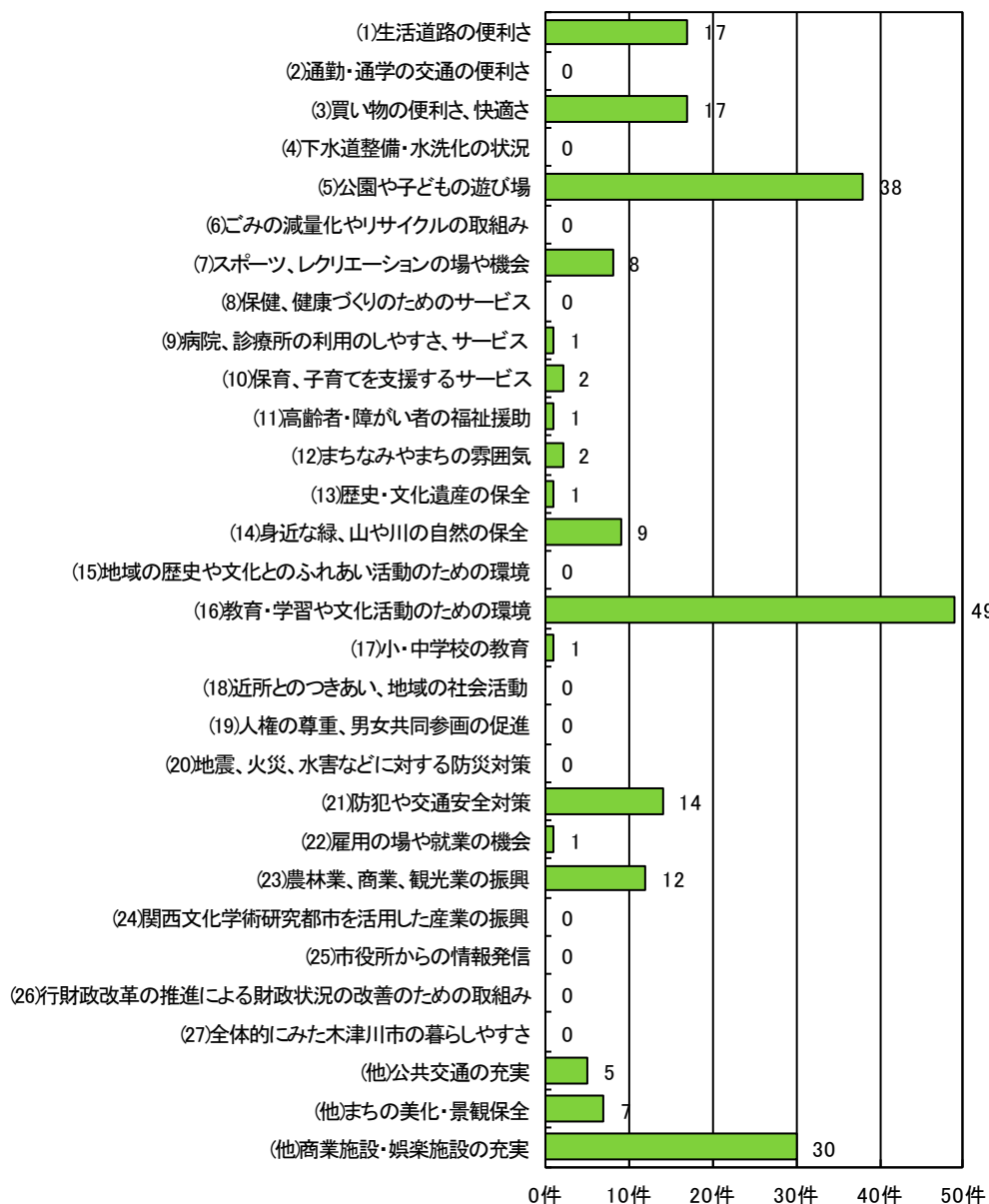
問6 もしあなたが木津川市の市長になったとしたら、どのようなまちにしていきたいと思いますか。
あてはまるものを2つ以内で選び○をつけて下さい。



その他 自由記述



※参考 自由記述の内容内訳



第1次木津川市総合計画施策WT評価結果

1. 取組みの到達度

- A：ほぼ全ての取組みを実施し、十分な成果がみられる。
- B：実施していない取組みもあるが、十分な成果がみられる。
- C：ほぼ全ての取組みを実施しているが、あまり成果がみられない。
- D：実施していない取組みもあり、あまり成果がみられない。

2. 施策の評価

- 1：未達成（低い）
- 2：あまり達成できなかった（やや低い）
- 3：ほぼ達成できた（やや高い）
- 4：達成できた（高い）

3. 今後の方向性

- ・拡充
- ・現状維持
- ・見直し

第2次木津川市総合計画 まちの将来像について

平成29年11月28日
第2回 木津川市総合計画審議会



木津川市

木津川市の特徴(キーワード)

- ・都市形態

学研都市、福祉都市、文化都市、先端技術都市、科学技術都市、研究開発都市

- ・自然環境

木津川、自然、水、緑、文化、歴史、文化財、恭仁京、活用、保全、美しいふるさと、郷土愛

- ・暮らし

安心、安全、健康づくり、公共交通の充実、生きがいのある暮らし

- ・施策

子育て支援No.1、子育て環境の充実、学校教育の充実

- ・その他

市民協働、市民総参加、健全経営(財政)、雇用の創出、調和、きづな、心、夢、はぐくむ、きらめく、集う、はばたく

近隣市町村の将来像

No	自治体名	将来像
1	宇治市	みどりゆたかな住みたい、住んでよかった都市 ～お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治～
2	八幡市	自然と歴史文化が調和し、人が輝くやすらぎの生活都市 ～自立と協働による個性あふれるまちづくり～
3	久御山町	つながる 心みなぎる活力 京都南に「きらめく」まち ～夢いっぱい コンパクトタウン くみやま～
4	城陽市	歴史と未来をつなぎ、人をはぐくむ緑のまち・城陽
5	京田辺市	緑豊かで健康な文化田園都市
6	宇治田原町	人がつながる 未来につながる お茶のさと 宇治田原 ～やすらぎ・ぬくもり・ハートのまち～
7	精華町	人を育み未来をひらく学研都市精華町
8	井手町	～住んでみたい、住み続けたい～ みんなでつくる 元気 ふれあい やすらぎ 井手町
9	和束町	ずっと暮らしたい 活力と交流の茶源郷 和束
10	南山城村	自然が薫り 絆が生きる 自立するむら！ みなみやましろ
11	木津川市	水・緑・歴史が薫る文化創造都市 ～ひとが耀きともに創る 豊かな未来～

近隣市町村の将来像

No	自治体名	将来像
1 2	京丹後市	ひと みず みどり 市民総参加で飛躍するまち 北近畿新時代へ和のちからで輝く 京丹後
1 3	京丹波町	日本のふるさと。自給自足的循環社会 京丹波
1 4	南丹市	みんなの笑顔 元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る 森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市
1 5	福知山市	21世紀にはばたく北近畿の都 福知山 ～新時代・北近畿をリードする創造性あふれるまち～
1 6	舞鶴市	東アジアに躍動する国際港湾・交流都市 舞鶴
1 7	奈良市	市民が育む世界の古都奈良 ～豊かな自然と活力あふれるまち～
1 8	香芝市	笑顔と元気！ 住むなら かしば
1 9	生駒市	市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒
2 0	栗東市	ひと・まち・環境 とともに育む「健やか・にぎわい都市」栗東
2 1	伊賀市	勇気と覚悟が未来を創る 「ひとが輝く地域が輝く」伊賀市